

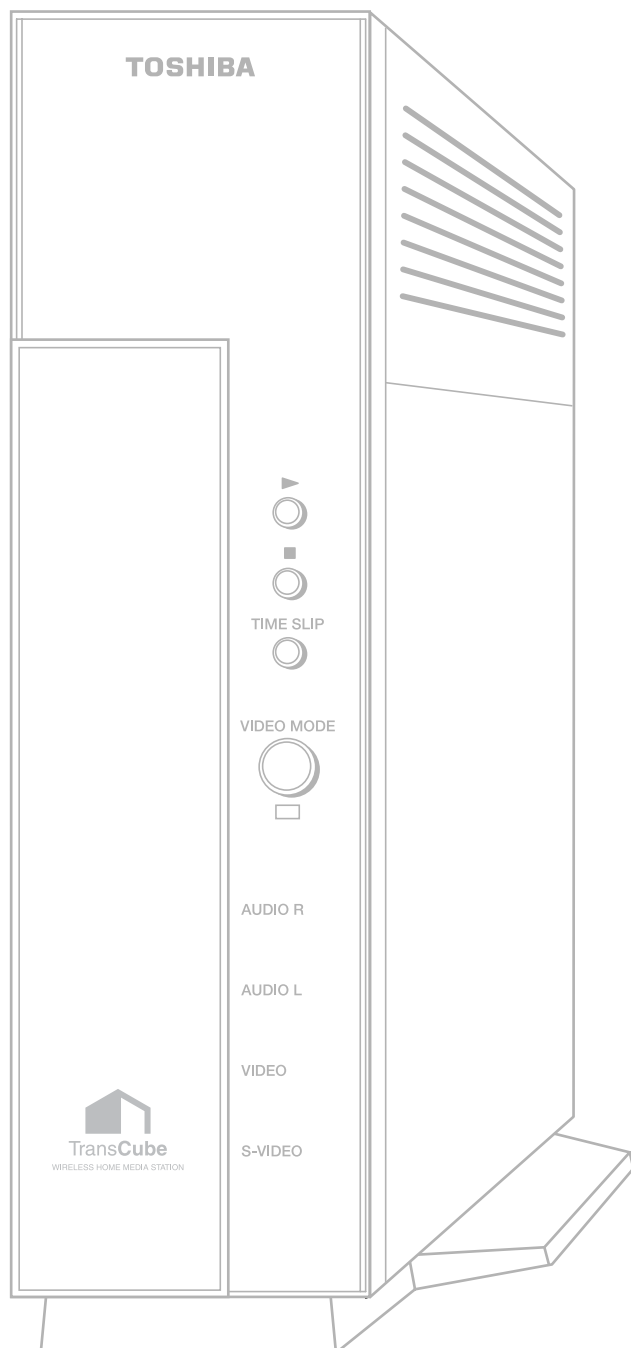
# TOSHIBA



WIRELESS HOME MEDIA STATION

取扱説明書

クイックスタートマニュアル



設置と設定の手順が説明されています。  
はじめにこのマニュアルをお読みください。

このたびは東芝ワイヤレスホームメディアステーション TransCube をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。

お求めの TransCube を正しく使っていただくために、お使いになる前に「取扱説明書」をよくお読みください。

お子さまがご使用の際は、保護者の方が正しい使い方をご指導ください。

お読みになったあとはいつも手元においてご使用ください。

ワイヤレス ホームメディアステーション

**トランスキューブ** (TransCube 10)

はじめに

設置と設定

本製品の  
各部名称

電源の接続と  
リモコンの準備

テレビなどの  
接続

パソコンとの  
接続

本体の設定

インターネット  
への接続

やってみよう

## 免責事項について

火災、地震、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他の異常な条件下での使用により生じた障害に関して、当社は一切の責任を負いません。

本製品および本製品付属のソフトウェアの使用または使用不能から生ずる付随的な損害（事業利益の損失、事業の中断、記録内容の変化・消失など）に関して、当社は一切の責任を負いません。

取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

接続機器との組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

何らかの不具合によりハードディスクの録画、録音、編集がされなかった場合の補償および付随的な損害（事業利益の損失、事業の中断など）に対して、当社は一切の責任を負いません。

何らかの不具合によりハードディスクの録画済みの内容が消えてしまう場合があります。その場合の補償および付随的な損害（事業利益の損失、事業の中断など）に対して、当社は一切の責任を負いません。

無線 LAN の使用によるデータの盗聴、およびそれによる被害に関しては保証できません。

インターネットなどのアクセスにより個人情報の漏洩、または不正アクセスが発生した場合、被害に関して保証できません。

## 用途制限について

・本製品は人の生命に直接関わる装置等（\*1）を含むシステムに使用できるよう開発・制作されたものではないので、それらの用途に使用しないでください。

\*1：人の生命に直接関わる装置等とは、以下のものをいいます。

- ・生命維持装置や手術室用機器などの医療用機器
- ・有毒ガスなど気体の排出装置および排煙装置・消防法、建築基準法など、各種法律を遵守して設置しなければならない装置など

・本製品を、人の安全に関与し、公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置等を含むシステム（\*2）に使用しないでください。

\*2：人の安全に関与し、公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置等を含むシステムとは、以下のよう

- ・原子力発電所の主機制御システム、原子力施設の安全保護系システム、その他安全上重要な系統およびシステム、集団輸送システムの運転制御システムおよび航空管制制御システムなど

本製品の保証条件は、同梱されている当社所定の保証書の規定をご覧ください。

本製品を改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

本製品および本製品に付属のソフトウェアの仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本取扱説明書の内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取扱にはご注意願います。

バージョンアップ用のデータについても同様です。お取扱にはご注意願います。

お客様が設定されたパスワードを忘れてしまった場合、パスワードの再設定を保守サービスに依頼される場合は有償となります。

# 操作早見表

## TransCube には 3 つの動作モードがあります

### ルータモード

ルータとして機能します。テレビ視聴・ビデオ機能は休止しています。

### リモコンビデオモード

リモコン / 本体スイッチで操作できます。  
パソコンでは操作できません。

### PC ビデオモード

LIVE MEDIA for TransCube (パソコンのアプリケーション) で操作できます。  
リモコン / 本体スイッチでは操作できません。

ビデオモード時もルータ機能は使用できます。

2 つのビデオモードを切り替えるには、一度ルータモードに戻る必要があります。

## 各ビデオモードで操作できる内容は以下のとおりです

操作	PC ビデオモード	リモコンビデオモード
モード切り替え		
ビデオモードへの切り替え	LIVE MEDIA for TransCube で接続	[ビデオモード]スイッチ
ルータモードへの切り替え	LIVE MEDIA for TransCube の終了	[ビデオモード]スイッチ
テレビ視聴・再生		
テレビ視聴	*1	
お好み再生	*1	
スロー・早送り・巻き戻し再生	*1	
ワンタッチスキップ・ワンタッチリプレイ	*1	
リピート再生	*1	-
録画同時再生	*1	
レジューム再生	*1	
次 / 前のレジュームポイントへの移動	-	
録画		
ワンタッチ録画	*2	*2
録画延長・短縮		
録画画質の切り替え	*2	*2
録画予約		
録画予約	*2	-
録画予約の削除・変更	*2	-
iEPG 番組表での録画予約	*2	-
リモート録画予約のための設定		-
予約した録画を実行中に停止		
録画済みタイトルの操作		
タイトルの選択と再生	*3	*3
タイトルの削除	*2	*2
タイトルの保護・保護解除	*3	*3
サムネイル表示		-
タイトルの名前などの変更	*3	-
タイトルの検索		-
その他		
本体 パソコンのコピー	*3	-
映像の解析	*4	-
映像設定・通信速度設定		-
チャンネル設定・本体時刻設定		-
ルータ設定*5	-	-

\*1 = 「標準」以上の画質で録画中で、通信速度設定が「標準」のときは映像はパソコンに表示できません。 \*2 = 録画中は実行できません。 \*3 = 録画中のタイトルに対しては実行できません。パソコンへのコピーについては、再生中のタイトルに対しても実行できません。 \*4 = パソコンに保存されているタイトルに限ります。 \*5 = ビデオモードのときは設定しないでください。

# 設置と設定の手順

## 1 本製品に含まれるものを確認する

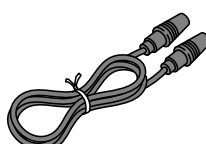
右の一覧でご確認ください

- ・取扱説明書（4冊）
- ・お客様登録カード兼保証書

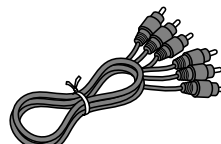
ACアダプタ、  
電源コード



アンテナケーブル×2本



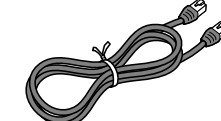
映像・音声接続コード



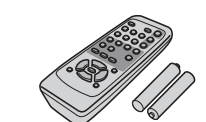
S映像接続コード



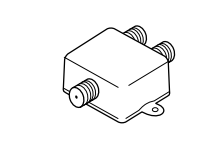
カテゴリ5LAN  
ストレートケーブル



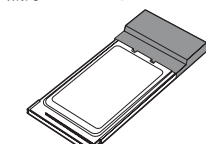
ワイヤレスリモコン  
単三形乾電池×2個



分配器



無線LANカード



「TransCube Driver,  
Application CD」CD-ROM



## 2 「安全上のご注意」「使用上のお願い」をよく読む

➡ 8ページ

## 3 設置についての注意事項をよく読む

➡ 18ページ

## 4 アンテナを接続し、テレビなどと接続する

テレビアンテナの接続 ➡ 29ページ

ケーブルテレビのアンテナの接続 ➡ 30ページ

テレビとのみ接続する場合：映像・音声入力端子付きテレビとの接続 ➡ 31ページ

テレビ、ビデオデッキと同時に接続する場合：ビデオデッキとの接続 ➡ 32ページ

以下、ご利用の形態に合わせて必要なページをご覧ください。

- ・BSチューナーなどとの接続 ➡ 34ページ
- ・カメラ一体型ビデオとの接続 ➡ 35ページ

## 5 電源を接続し、リモコンを準備する

➡ 24～28ページ



右ページ **6** へ

5から



## 6 付属ソフトウェアをパソコンにインストールする




ご利用のOSに応じて、以下のいずれかのページをご覧ください。


- ・ Windows XP \*1  36ページ
- ・ Windows Me \*2  LIVE MEDIA for TransCubeリファレンスマニュアル・160ページ



## 7 パソコンと接続する

**無線LAN接続の準備**（ご利用のパソコンとOSに応じて、以下のいずれかのページをご覧ください）

- ・ 無線LAN内蔵パソコンのとき  40ページ
- ・ 付属の無線LANカードを使うとき（Windows XP）  41ページ
- ・ 付属の無線LANカードを使うとき（Windows Me）  本体リファレンスマニュアル・63ページ

**有線LAN接続の準備**（無線LAN接続だけでご利用の場合、ここはご覧になる必要はありません）  46ページ

**無線LAN / 有線LAN共通の設定と接続の確認**（無線LAN接続、有線LAN接続、いずれの場合もお読みください）

 48ページ



## 8 本体の設定を行う

 59ページ



## 9 インターネット接続のための設定を行う

 63ページ

### お願い

「クイックスタートマニュアル」は、Windows XPをご使用の場合を中心に説明されています。Windows Meをご使用の場合、必要に応じて「本体リファレンスマニュアル」「LIVE MEDIA for TransCubeリファレンスマニュアル」をご参照いただきますので、あらかじめご了承ください。

### 取扱説明書の使い方

#### 設置と設定を行う

このページの「設置と設定の手順」に従って、TransCubeとパソコンの設置と設定を行ってください。

#### 主な操作を試してみる

「やってみよう」（89ページ）には、TransCubeの基本的な機能について、操作方法や操作時の注意点などが書かれています。簡単な操作から複雑な機能へと進むように構成されていますので、内容に従って、実際にTransCubeとLIVE MEDIA for TransCubeの操作を行ってみてください。

#### 機能別に操作方法を知りたいときは、リファレンスマニュアルを参照する

別冊の「本体リファレンスマニュアル」「LIVE MEDIA for TransCubeリファレンスマニュアル」には、各機能の操作や注意点が個別にまとめられています。

#### pdf形式の取扱説明書

付属ソフトウェアのうち、「Power Director 2.0」（映像編集ソフト）の取扱説明書は、pdf形式のデータでCD-ROMに収録されています。パソコンで見える方法は、「LIVE MEDIA for TransCubeリファレンスマニュアル」129ページをご覧ください。

\*1：Microsoft® Windows® XP Home Edition および Microsoft® Windows® XP Professional（本取扱説明書では、以下、Windows XPと表記します）

\*2：Microsoft® Windows® Millenium Edition（本取扱説明書では、以下、Windows Meと表記します）

操作早見表 .....	1
設置と設定の手順 .....	2

## はじめに 8

安全上のご注意 .....	8
使用上のお願い .....	13
取扱に関すること .....	13
使用しないときは .....	13
置き場所に関すること .....	13
お手入れに関すること .....	13
日本国内用です .....	14
アンテナについて .....	14
大切な録画・録音・編集について .....	14
停電について .....	14
内蔵ハードディスクについて .....	14
結露（露付き）について .....	15
著作権について .....	15
テレビ視聴と録画について .....	15
無線 LAN について .....	16
内蔵タイマーについて .....	16

## 設置と設定

17

設置場所について .....	18
----------------	----

## 本製品の各部名称 20

本体の各部名称 .....	20
本体前面 .....	20
本体背面 .....	21
リモコンの各部名称 .....	22
本体表示窓（モードパネル）の表示内容 .....	23

## 電源の接続とリモコンの準備 24

リモコンの準備 .....	24
乾電池の入れ方 .....	24
リモコンで操作するには .....	24
電源の接続 .....	25
電源スイッチの ON/OFF .....	26
ルータモードとビデオモードの切り替え .....	27
ビデオモードに関する補足 .....	28

## テレビなどとの接続 29

テレビアンテナの接続 .....	29
ケーブルテレビのアンテナの接続 .....	30
テレビによってアンテナ入力端子が違います .....	30
映像・音声入力端子付きテレビとの接続 .....	31
ビデオデッキとの接続 .....	32
テレビに映像・音声外部出力端子が付いていない場合 .....	32
テレビに映像・音声外部出力端子が付いている場合 .....	33
BS チューナーなどとの接続 .....	34
カメラ一体型ビデオ（ビデオカメラ）などとの接続 .....	35

## パソコンとの接続

36

LIVE MEDIA for TransCubeのインストール.....	36
LIVE MEDIA for TransCubeの動作環境.....	36
LIVE MEDIA for TransCubeをインストールする.....	37
無線LAN接続の準備.....	40
無線LANを内蔵しているパソコンの場合.....	40
付属の無線LANカードを利用する場合.....	41
付属のCD-ROMから無線LANドライバをインストールする.....	43
有線LAN接続の準備.....	46
無線LAN / 有線LAN共通の設定.....	48
TransCubeへの接続.....	51
つながらないときは.....	53
Windows XPの「ネットワークセットアップウィザード」を実行する.....	53
Windows Meの「インターネット接続ウィザード」を実行する.....	55
ネットワーク接続が有効かどうかを確認する.....	56
IPアドレスが自動取得できていることを確認する.....	57
ほかのページが表示されてしまうなど、TransCubeに接続できないとき.....	58
パソコン本体の「無線LANスイッチ」を確認する.....	58

## 本体の設定

59

LIVE MEDIA for TransCubeの起動と初期設定.....	59
---------------------------------------	----

## インターネットへの接続

63

ADSL回線への接続.....	63
LANケーブルの用意.....	63
ADSLモデムとの接続.....	64
CATV回線への接続.....	66
LANケーブルの用意.....	66
ケーブルモデムとの接続.....	66
Internet Explorerのプロキシサーバー設定を変更する.....	68
「簡単! セットアップウィザード」を起動する.....	71
「PPPoEモード」の設定.....	74
「IP自動設定(DHCP)モード」の設定.....	78
機器名を変更する.....	80
「IP手動設定モード」の設定.....	82
その他のネットワーク設定の確認.....	85
TransCubeのIPアドレス設定とDHCPの設定確認.....	85
無線LANの基本設定の確認.....	87
接続の確認.....	88

## やってみよう

89

## パソコンからの録画・再生操作

90

テレビを見る.....	90
LIVE MEDIA TVでテレビ番組を見る.....	90
テレビチャンネルを切り替える.....	92
音量を調節する.....	93
録画してみる.....	94
見ているテレビ番組を録画する.....	94

録画画質を設定する .....	96
アルバムから選択して再生する .....	97
再生を一時停止する .....	99
追っかけ再生を試してみる .....	100
お好み再生を試してみる .....	102
お好み再生の開始.....	102
お好み再生の終了.....	103
録画予約を試してみる .....	104
ナビパネルで録画予約を行う .....	104
予約した録画の実行中に録画を停止する .....	105
録画予約を削除してみる .....	106
録画したタイトルを一覧してみる .....	108
不要なタイトルを削除してみる .....	109
アルバムで録画した番組の一覧を表示する .....	109
LIVE MEDIA TVを終了する .....	111

## インターネットの活用 112

インターネットの番組表ページを見る.....	112
番組を選んで録画予約してみる .....	114
iEPGで番組予約する.....	114
予約内容を確認する .....	115

## リモコン / 本体のボタンによる録画・再生操作 117

テレビを見る .....	117
テレビ放送を見る.....	117
テレビチャンネルを切り替える .....	118
情報を画面に表示する .....	119
録画してみる .....	120
見ているテレビ番組を録画する .....	120
画質を設定する .....	121
再生してみる .....	123
追っかけ再生を試してみる .....	125
お好み再生を試してみる .....	127
録画したタイトルの一覧を表示してみる .....	129
録画した番組の一覧表を表示する.....	129
ページを切り替える.....	130
不要なタイトルを削除してみる .....	131
ビデオモードを終了する .....	133



## 困ったときは



## 135

本体の起動や終了について .....	136
リモコン / 本体スイッチについて .....	136
有線 LAN 接続について .....	137
無線 LAN 接続について .....	138
無線 LAN 接続 / 有線 LAN 接続共通の問題について .....	139
ルータ機能について .....	141
本体テレビ / ビデオ機能について .....	144
LIVE MEDIA TV について .....	146
本体テレビ / ビデオ機能と LIVE MEDIA TV 共通の問題について .....	149
ファームウェアのアップデートについて .....	150
その他 .....	150
Windows XP のファイアウォール設定を変更する .....	151
地域番号と放送局一覧表 .....	154
商標について .....	159
トランスキューブ セットアップ規約 .....	160
ハードウェアの保証とアフターサービスについて .....	161

# 安全上のご注意

ご使用前に、この安全上のご注意をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書には、お使いになる方やほかの人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。





## [ 表示の説明 ]

表 示	表 示 の 意 味
 <b>警告</b>	“ 誤った取扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性のあること ” を示します。
 <b>注意</b>	“ 誤った取扱いをすると人が傷害 1 を負う可能性、または物的損害 2 のみが発生する可能性のあること ” を示します。

1：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをいいます。

2：物的損害とは、家屋・家財などにかかわる拡大損害をいいます。

## [ 図記号の説明 ]

図 記 号 例	図 記 号 の 意 味
 禁 止	“  ” は、禁止( してはいけないこと )を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で説明しています。
 強 制	“  ” は、強制( 必ずすること )を示します。 具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で説明しています。

## 警告

### 異常や故障のとき

煙が出ていたり、変なにおいがするときは、電源スイッチをOFFにしてACアダプタのコードをDC入力端子から抜き、すぐに電源プラグをコンセントから抜くこと  
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認し、東芝家電修理ご相談センターにご連絡ください。



プラグを抜け



内部に水や異物が入ったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜くこと  
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。東芝家電修理ご相談センターにご相談ください。



プラグを抜け



落したり、キャビネットを破損したときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜くこと  
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。東芝家電修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



プラグを抜け



電源コードが傷んだり、電源プラグが発熱したときは、すぐに電源を切り、電源プラグが冷えたのを確認してコンセントから抜くこと  
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら、東芝家電修理ご相談センターに交換をご依頼ください。



プラグを抜け



## 警告

### 設置されるとき

屋外や風呂、シャワー室など、水のかかるおそれのある場所には置かないこと  
火災・感電の原因となります。



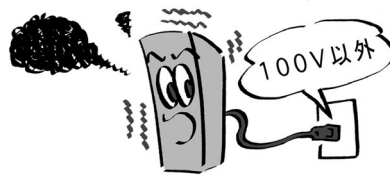
風呂、シャワー室での使用禁止



電源プラグは交流 100V のコンセントに接続すること  
交流 100V 以外を使用すると、火災・感電の原因となります。



強制



ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所や振動のある場所に置かないこと

本機が落ちて、けがの原因となります。また、振動により、内蔵ハードディスクなどの故障の原因となります。



禁止



上に物を置かないこと

金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体が内部に入った場合、火災・感電の原因となります。

重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。



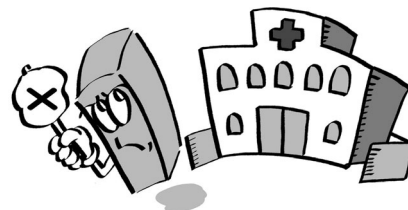
上載せ禁止



医療機器の近くで無線 LAN 機能を使用しないこと  
本製品の無線 LAN 機能を医療機器の近くで使用すると、医療機器の誤作動の原因となることがあります。医療機器の近くではご使用にならないでください。



禁止



電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込む  
確実に差し込んでいないと、火災、感電の原因となります。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方をしない  
タコ足配線などで定格をこえると、火災、感電の原因となります。

### ご使用になるとき

修理・改造・分解はしないこと  
火災・感電の原因となります。  
点検・調整・修理はお買い上げの販売店にご依頼ください。



分解禁止



放熱ファンなどから異物を入れないこと  
金属類や紙などの燃えやすい物が内部に入った場合、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



禁止



## 警告

### ご使用になるとき

雷が鳴りだしたら、本機には触れないこと  
感電の原因となります。



接触禁止



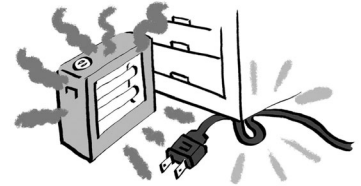
電源コードは

傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したりしないこと

引っ張ったり、重い物を載せたり、はさんだりしないこと  
無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしないこと  
火災・感電の原因となります。



禁止



梱包に使用しているビニール袋をお子様がかぶって遊んだりしないようにする  
窒息のおそれがあります。

取り外した小さな部品（リモコン電池、分波器）や、ケーブル類は、小さなお子さまの手の届かないところに置く  
ケーブルが絡まり窒息の恐れがあります。小さな部品を誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

付属のACアダプタ、ACケーブルを使用すること  
異なるACアダプタを使用すると、電圧や（+）（-）の極性が異なっていることがあるため、火災、破裂、発煙の原因となります。

### お手入れについて

電源プラグの刃や刃の取り付け面にゴミやほこりが付着している場合は、電源プラグを抜きゴミやほこりを取ること  
電源プラグの絶縁低下により、火災の原因となります。



強制



## ⚠ 注意

### 設置されるとき

温度の高い場所に置かないこと  
直射日光の当たる場所・ストーブのそば・電気カーペットの上などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。また、破損、その他の部品の劣化や破損の原因となることがあります。



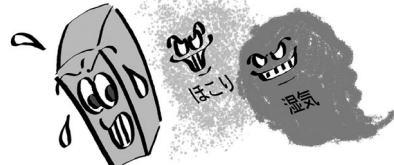
禁止



湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かないこと  
加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。



禁止



風通しの悪い場所に置かないこと  
内部温度が上昇し、火災の原因となることがあります。  
壁に押しつけないでください。  
押し入れや本箱など風通しの悪い場所に押し込まないでください。  
テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。  
じゅうたんや布団の上に置かないでください。



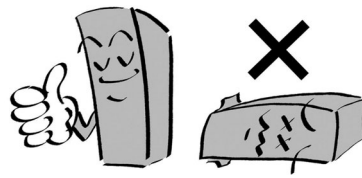
禁止



縦に置いて使用すること  
必ず脚部を下にし、縦に置いて使用してください。あおむけ・横倒し・さかさまに置くと、機器の故障の原因となるほか、放熱の妨げとなって内部温度が上昇し、火災の原因となることがあります。



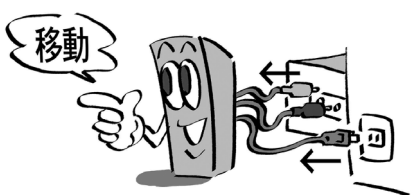
強制



移動させる場合は、電源プラグ・外部との接続線を外すこと  
電源プラグを抜かずに運ぶと、電源コードが傷つき火災・感電の原因となることや、接続線などを外さずに運ぶと、本機が転倒し、けがの原因となることがあります。



強制



排気口をふさがないこと  
本体背面の排気口や、側面・背面の孔をふさがないでください。内部温度が上昇し、火災の原因となることがあります。



禁止



温度変化・薬品・磁気を避けて設置すること  
急速に温度や湿度が変化するような環境や、腐食性の薬品のそばに置かないでください。故障や誤動作の原因となるおそれがあります。  
ステレオスピーカなど、強い磁気を発するもののそばに置かないでください。そのまま使用するとデータが消失したり、故障や誤動作の原因となるおそれがあります。

極端に低温になるところに置かない  
故障、誤動作、記憶内容の消失の原因となります。

雷が鳴っているときは使用しない  
故障、誤動作、記憶内容の消失の原因となります。

ほこりの多いところに置かない  
故障、誤動作、記憶内容の消失の原因となります。内部にほこりが入ったときは、お買い求めの販売店または東芝家電修理ご相談センターに点検を依頼してください。



## ⚠ 注意

### ご使用になるとき

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かないこと  
電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき、火災・感電の原因となります。電源プラグを持って抜いてください。



引っ張り禁止



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと  
感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止



旅行などで長時間ご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜くこと  
万一故障したとき、火災の原因となることがあります。



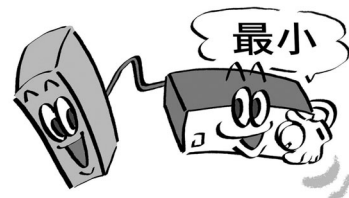
プラグを抜け



電源を入れる前には音量を最小にすること  
電源を入れる前には、接続しているテレビなどの音量を最小にしておいてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となることがあります。



強制



テレビなどの音量を上げすぎないこと  
音量を上げすぎると、耳への刺激で聴力に悪い影響を与えたり、ご近所の迷惑になります。特に夜間は、日中よりも音量を下げるようにしてください。



禁止



排気口に指などを入れない  
本体背面の排気口には冷却用のファンがあります。電源が入っているときに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



禁止



パソコンでご利用中の無線 LAN カードを取りはずす場合、無線 LAN カードの使用を停止する  
使用停止せずにパソコンでご利用中の無線 LAN カードを取りはずすとシステムがハングアップしたり、データが失われる場合があります。

無線 LAN カードが熱いときは取りはずさない  
無線 LAN カードを取りはずす際に、無線 LAN カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから取りはずしてください。無線 LAN カードは、長時間使用していると熱を帯びる場合があります。

パソコンの PC カードスロットに異物を挿入しない  
パソコンの PC カードスロットからの金属異物挿入は、回路を短絡する場合があります。

本体に長時間、素肌が直接触れないようにする  
ご使用中、本体の表面が熱を帯びますので、本体に長い間触れていると、低温やけどの原因となります。肌の弱い方は特にご注意ください。

アプリケーションソフトの動作中に電源を切らない  
パソコンにインストールしたアプリケーションソフトが動作中に、パソコンの電源を切らないでください。データが消失する場合があります。

# 使用上のお願い

## 取扱に関すること

本機の動作中は絶対に電源プラグをコンセントから抜いたり、ACアダプタのコードをDC入力端子から抜いたりしないでください。故障の原因となります。

電源プラグは、必ず本体背面の電源ボタンをOFFにして、終了処理が終わり、完全に電源が切れたことを確認してから抜くようにしてください。

録画中に電源プラグを抜いたりブレーカーを落としたりすると、それまで記録されたデータはすべて失われる場合があります。

移動させるときは

移動する前に必ず本体背面の電源ボタンをOFFにして、終了処理が終わり、完全に電源が切れたことを確認してください。

引っ越しなど、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように梱包箱に入れるか、毛布などくるんでください。また、振動や衝撃を与えないでください。

本体の電源スイッチをOFFにした後、終了処理完了から30秒は動かさないでください。

殺虫剤や揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変色したり、塗装がはげるなどの原因となります。

長時間ご使用になっていると天板や後部が多少熱くなりますが、故障ではありません。

本体底部のネジをはずしたり、スタンド（脚部）をはずしたりしないでください。分解と見なし、保証の対象外となります。

本体前面のドアを無理に（110度以上）開かないでください。また、ドアを持って本体を持ち上げたり移動しないでください。故障の原因となります。

本体前面のボタンを先のとがったもので押したり、塗装面に先のとがったもので触れないでください。故障やきずの原因となります。

本体内蔵の時計用バッテリーは消耗品です。交換は有償となります。

静電気が発生しやすい環境では、本体に触れる前に放電をしてください。本機の故障となる場合があります。ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に合わせ正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

盗難防止用の機器については、本製品に対応のものがどうかを販売店にご確認ください。

## 使用しないときは

ふだん使用しないとき

本体背面の電源スイッチを切っておいてください。

長時間使用しないとき

本体背面の電源スイッチを切り、本体の終了処理が完了したこと（表示窓の表示が消えたこと）を確認してから電源プラグを抜いてください。

## 置き場所に関すること

本機を設置する際は、必ず脚部を下にし、縦に置いて使用してください。横に置くと、機器の故障の原因となるほか、放熱の妨げとなって内部温度が上昇し、火災の原因となることがあります。また、無線LANの電波が遮断され、無線LAN機能が正常に使用できなくなるおそれがあります。

本機をテレビやラジオ、ビデオの近くに置く場合には、本機を使用中、画像や音声に悪い影響を与えることがあります。万一、このような症状が発生した場合はテレビやラジオ、ビデオから離してください。

車中で使用しないでください。

内部冷却用のファンの通風孔をふさがないでください。内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

ACアダプタは、温度の影響を受けやすいものの上に置いて使用しないでください。あとがつくことがあります。

## お手入れに関すること

キャビネットや操作パネル部分のよごれは柔らかい布で軽く拭き取ってください。

よごれがひどいときは、電源プラグをコンセントから抜き、布を水で薄めた中性洗剤にひたし、よく絞って拭き取り、乾いた布で仕上げてください。

ベンジン、シンナーは絶対使用しないでください。

変色したり、塗装がはげるなどの原因となります。

本体正面のアクリル部分に指紋などが付いた場合は、やわらかい布で拭き取ってください。

化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書にしたがってください。

はじめに

設置と設定

各部名称

電源の接続とリモコンの準備

テレビなどの接続

パソコンとの接続

本体の設定

インターネットへの接続

やってみよう

## 日本国内用です

本機を使用できるのは日本国内のみです。外国では電源電圧が異なりますので使えません。

This product is designed for use in Japan only.  
Do not use in any other countries.

## アンテナについて

画像や音声はアンテナの電波受信状況によって大きく左右されます。

本機を接続した場合、電波の弱い地域では、受信状態が悪くなることがあります。この場合は購入店にご相談されるか、市販のアンテナブースターをご購入ください。アンテナブースターをご使用になる場合は、アンテナブースターの説明書をご覧ください。

## 大切な録画・録音・編集について

大切な録画・録音・編集の場合は、事前に試し録画・録音・編集を行い、正しくできることを確かめておいてください。

本機を使用中、万一何らかの不具合により、録画・録音・編集されなかった場合の内容の保証および付随的な損害(事業利益の損失、事業の中断など)に対して、当社は一切の責任を負いません。

電源ONの状態で電源プラグを抜いたり停電があった場合、記録内容がすべて消える場合があります。

内蔵ハードディスクに記録した重要な内容は、ビデオテープにダビングするか、パソコンにコピーして保存されることをお勧めします。

放送チャンネルや番組によっては、音量オーバーすると音が割れたり、飛んだりすることがあります。必要に応じて調整してください。

## 停電について

本機の動作中に停電等が発生すると、場合により内蔵ハードディスクに記録した内容、または記録中の内容が消去されてしまうことがあります。

内蔵ハードディスクに記録した重要な内容は、ビデオテープにダビングするか、パソコンにコピーして保存されることをお勧めします。

## 内蔵ハードディスクについて

本機にはハードディスク(HDD)が内蔵されています。ハードディスクは衝撃や振動、温度などの周囲の環境の変化を受けやすく、録画・再生が停止したり、コマ落ちしたり、記録されているデータが損なわれることがありますので、以下のことにお気をつけください。

振動や衝撃を与えないでください。

振動する場所や不安定な場所で使用しないでください。

衝撃・振動・誤動作により生じた記録データの壊損、喪失について、当社は一切の責任を負いません。

ハードディスクは非常に精密な機器で、振動や衝撃に弱いので、使用状況によっては部分的な破損や最悪の場合データの読み出しと書き込みができなくなります。

ハードディスクには寿命があり、使用状態が激しい場合は数年で異常をきたす場合があります。ハードディスクに記録した映像にノイズが発生しやすくなった場合が交換の目安です。交換の場合は、「東芝テクノネットワーク」までご相談ください。

万一ハードディスクが破損または故障した場合、録画したデータの修復はできません。

ハードディスクをお客様ご自身で増設・交換することはできません。

万一ハードディスクが故障または破損した場合、ハードディスクの交換は有償となります。

本機の内蔵ハードディスクを取り外し、パソコンなどに取り付けて使用することはできません。

内蔵ハードディスクに保存されたデータは、「削除」や「フォーマット」を行っただけでは、特殊なソフトウェアなどを使うことにより、消したはずのデータが再生されることがあります。本体の廃棄や譲渡の際に、ハードディスクに保存されたデータの完全消去を行う場合は、専門業者に依頼(有償)してください。



## 結露（露付き）について

結露は本機の内蔵ハードディスクや回路の故障の原因となります。よくお読みください。

例えば、よく冷えたビールをコップにつぐと、コップの表面に水滴がつきます。この現象と同じように、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを“結露（露付き）”といいます。



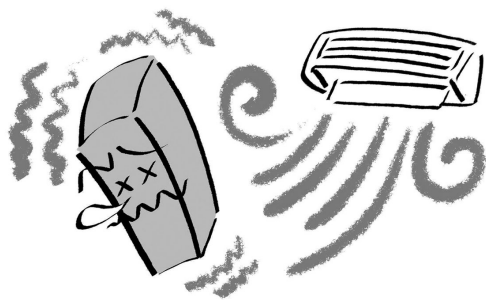
“結露”はこんなときおきます。

本機を寒いところから、急に暖かいところに移動したとき

暖房を始めたばかりの部屋や、エアコンなどの冷風が直接あたるところで使用したとき

夏季に、冷房のきいた部屋・車内などから急に温度・湿度の高いところに移動して使用したとき

湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋で使用したとき



結露がおきそうなときは、本機をすぐにご使用にならないでください。

結露がおきた状態で本機をお使いになりますと、内部の部品を傷めることがあります。本機の電源を切り、本機が周囲と同程度の温度になるまで放置して、水滴をとってからご使用ください。また、普段からACアダプタのコードをDC入力端子に差し、電源プラグをコンセントに差し電源をONにしておくと、本機の内部が暖まり、“結露（露付き）”が生じにくくなります。

## 著作権について

著作権保護技術の採用により、録画禁止のものは視聴したり録画したりできません。また、「録画1回可能」のものも視聴したりハードディスクに記録したりできません。

録画内容を無断で複製、放送、上映、有線放送、公共演奏、レンタルすることは、法律により禁止されています。

## テレビ視聴と録画について

本機を利用して映像・音声を視聴される場合、MPEG変換のために実時間より2秒程度再生が遅れます。厳密に実時間で見る必要がある場合は、本機を使わず直接テレビでご視聴ください。

本機は電源を入れてから録画できる状態になるまで時間がかかります。番組開始と同時に電源を入れた場合、番組冒頭の録画に間に合わない場合があります。

無線LANあるいは有線LANの負荷が大きい場合、パソコンでのテレビ視聴やタイトルの再生に支障が出る場合があります。

同時に2台以上のパソコンでテレビやビデオを視聴することはできません。

本機を使ってパソコンとテレビで同時に視聴することはできません。

無線LANでのテレビ/ビデオ視聴の場合、パソコンに送られる映像の画質は長時間録画モード相当（約2Mbps）となります。高画質でご覧になる必要がある場合は、本体に接続したテレビでご視聴ください。

放送チャンネルや番組によっては、画像がコマ落ちすることがあります。

録画中や再生中に本体に振動や衝撃を加えると、映像が途切れたり、停止したりしてしまうことがあります。ビデオデッキでビデオテープを再生して本機に入力した際、古いテープなどノイズが多いテープを使用した場合、コピープロテクト機能が働いて正常に視聴したり録画したりできない場合があります。

パソコンを本機に接続してテレビ視聴やタイトル再生を行う際、パソコンにウイルスチェックやファイアウォールなどのセキュリティソフトがインストールされていると、映像に乱れが生じたり転送ができないことがあります。

パソコンを本機に接続してテレビ視聴やタイトル再生を行う際、パソコンをバッテリー動作時などの省電力モードで使用している場合、映像が乱れることがあります。

## 無線 LAN について

本製品は 2.4GHz 帯の周波数を使用します。本製品の使用周波数帯では電子レンジ等の産業・化学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定省電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定省電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して、電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用チャンネルを変更するか(「本体リファレンスマニュアル・95 ページ」参照)または電波の発射を停止したうえ、販売店にご連絡いただき、混信回避のための処置等(パーティションの設置など)についてご相談してください。
3. その他、本製品から移動体識別用の特定省電力無線に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことがおきたときは、販売店へお問い合わせください。

埋め込み型心臓ペースメーカーを装備している人から離して使用してください。

本製品の無線 LAN 機能を医療機器の近くで使用すると、医療機器の誤作動の原因となることがあります。医療機器の近くではご使用にならないでください。

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは本製品の電源を切ってください。電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となることがあります。

同梱の無線 LAN カードをパソコンに取り付けて航空機内で使用するときは、航空会社の指示に従ってください。指示に従わず使用すると、運航装置に影響を与え、事故につながるおそれがあります。

航空機内および周辺に電波障害などが発生する場所では、本製品の電源を切ってください。電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となることがあります。電子レンジなど、2.4GHz 帯の周波数を使用する機器の近くで使用すると、本機の無線 LAN 機能に影響が出て、画像や音声が乱れるなどの現象が出る場合があります。万一このような現象が出たときは、設置場所を変えてください。

Bluetooth と同時に使用することはできません。

無線の電波の通信距離は、室内でおおよそ 10m です。ただし、壁の材質・見通し、また環境などの条件により異なります。隣接する部屋でも通信できないこともあります。通信距離についての保証はできませんのでご了承ください。

本機付属の無線 LAN カード、または東芝製無線 LAN 内蔵ノートパソコン以外の無線 LAN 機器を用いての映像の転送は保証できません。

USB 無線 LAN 機器などを用いての映像の転送は保証できません。

本機以外の無線 LAN アクセスポイントを LAN ポートに接続しての、無線による映像転送は保証できません。無線 LAN によりインターネットと映像の転送を同時に行うと映像が乱れることがあります。

パソコンでのテレビ視聴と同時にほかのパソコンからの通信が行われると、場合によっては画質が乱れる、または再生できないことがあります。

本製品と付属の無線 LAN PC カードは、日本国内でのみご使用いただけます。ほかの国では使えません。

無線 LAN 搭載マシンでは、同梱の無線 LAN カードを使用することはできません。

同梱の無線 LAN カードで使用できるチャンネルは 1 ~ 11 チャンネルです。

ネットワークの設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

## 内蔵タイマーについて

本機は内蔵タイマーの機能により、2038 年 1 月 19 日で時刻関係の機能が動作できなくなり、システムが使用できなくなります。

本機の日時設定は、2035 年 11 月 30 日以降は受けつけません。

## 技術基準適合について

本製品は、下記規制に適合しております。

- ・漏洩電流自主規制
- ・瞬時電圧低下
- ・電波障害自主規制
- ・高調波対策「高調波ガイドライン適合品」

## 廃棄について

本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

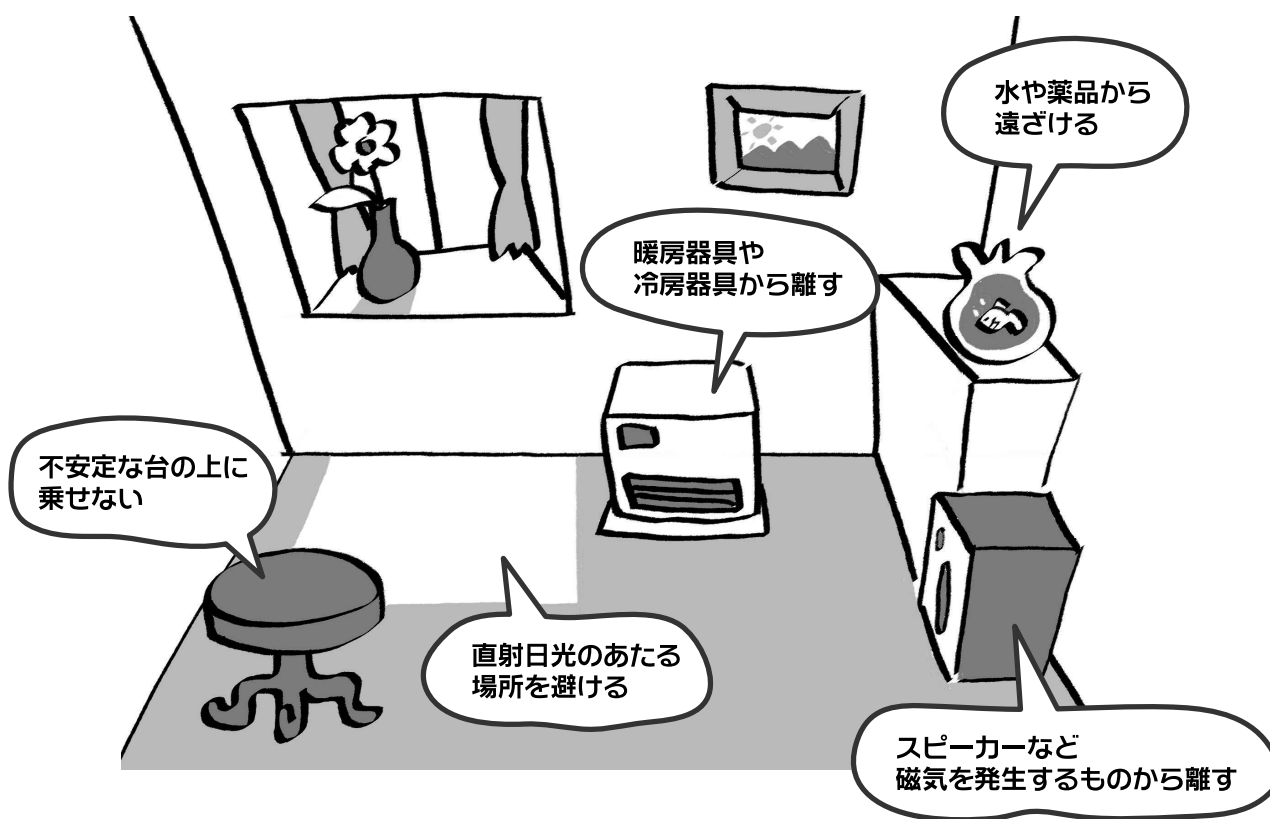
# 設置と設定

設置場所について.....	18
本体の各部名称.....	20
リモコンの各部名称 .....	22
リモコンの準備.....	24
電源の接続 .....	25
電源スイッチのON/OFF .....	26
ルータモードとビデオモードの切り替え .....	27
テレビアンテナの接続 .....	29
ケーブルテレビのアンテナの接続 .....	30
映像・音声入力端子付きテレビとの接続 .....	31
ビデオデッキとの接続 .....	32
BS チューナーなどとの接続.....	34
カメラ一体型ビデオ（ビデオカメラ）などとの接続 .....	35
LIVE MEDIA for TransCube のインストール.....	36
無線LAN 接続の準備 .....	40
有線LAN 接続の準備 .....	46
無線LAN / 有線LAN 共通の設定 .....	48
TransCube への接続 .....	51
つながらないときは .....	53
LIVE MEDIA for TransCube の起動と初期設定.....	59
ADSL 回線への接続 .....	63
CATV 回線への接続 .....	66
Internet Explorer のプロキシ サーバー設定を 変更する .....	68
「簡単! セットアップウィザード」を起動する.....	71
「PPPoE モード」の設定 .....	74
「IP 自動設定 (DHCP) モード」の設定 .....	78
「IP 手動設定モード」の設定 .....	82
その他のネットワーク設定の確認 .....	85
接続の確認 .....	88

# 設置場所について

TransCube はハードディスクを内蔵した精密機器です。振動やほこり、急激な温度変化を与えないように、設置場所を選んでください。

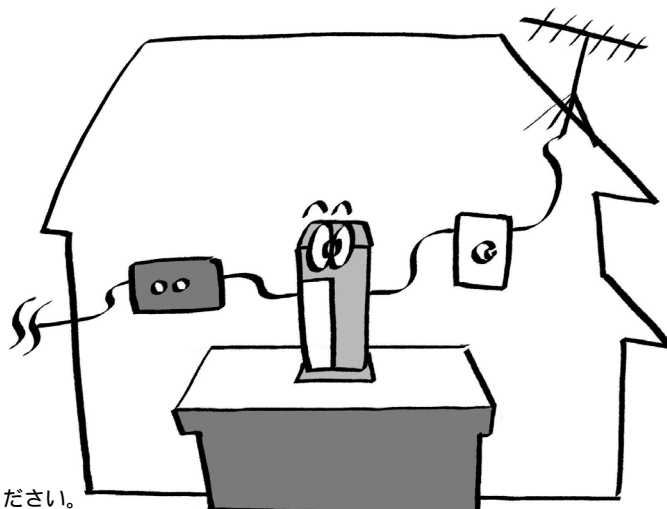
- ・不安定な場所に置くと、TransCube が落ちたり倒れたりする可能性があり、故障やケガにつながります。
- ・横にして置くと、故障の原因となります。必ず脚を下にして、縦に置いてください。
- ・オーディオラックの中や本棚の中など、まわりを遮蔽物に囲まれた場所に置くと、無線LAN の電波の到達距離が短くなります。なるべく電波をさえぎるものが少ないところに置いてください。
- ・本体にはハードディスクが内蔵されています。設置の際は、衝撃を与えないように、落とさず静かに置いてください。
- ・AC アダプタは、パソコンやTransCube の上に置かないでください。平らな安定した台の上に置いてください。また、電源コードにつまずいたりしないよう、注意して置いてください。



## こんなところに置いてください

- ・平らでしっかりした台の上
- ・コンセント、テレビ、テレビアンテナ、ADSLモデムやCATVモデムの近く
- ・無線LANの電波をさえぎるものが少ないところ
- ・電子レンジなど、2.4GHz帯の電波を利用する機器から離れたところ

TransCubeをテレビの近くに置いたとき、テレビの画像にノイズが出る場合は、テレビとTransCubeの距離を少し離してください。





### カバーやおおいをかけない

無線LANの電波の到達距離が短くなります。



### 狭い棚やラックの中に置かない

無線LANの電波の到達距離が短くなります。

## 用意するもの

設置を始める前に、次のものを用意してください。

#### TransCube 本体と付属品

インターネット接続事業者、またはプロバイダの取扱説明書、ADSL モデムなどの取扱説明書

・インターネット接続のための設定を行うために必要です。回線接続に使用する機器（ADSL モデムなど）の取扱説明書もご用意ください。

以下のものは必要に応じてご用意ください（本製品には付属していません）

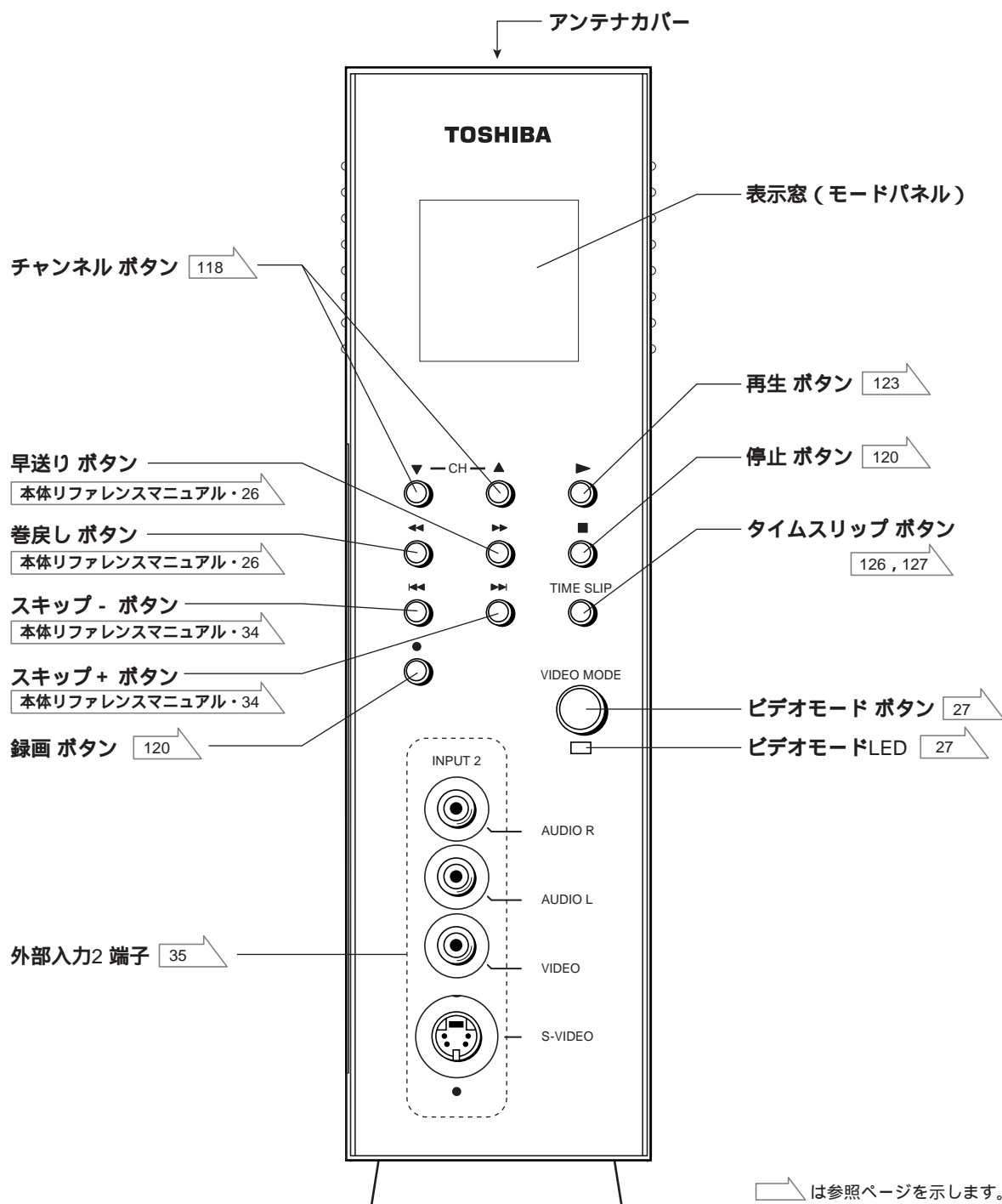
- ・アース線とプラスドライバー  
アースを取り付ける場合に必要です。
- ・パソコンおよびパソコン用のCD-ROM ドライブ  
付属ソフトウェアのインストールに、CD-ROM ドライブが必要です。CD-R、CD-RW、DVD/CD-R ドライブでもかまいません。
- ・テレビアンテナ用の整合器  
テレビアンテナ線が平行フィーダ線のと看や、テレビアンテナ線の末端に分配器が付いているときに必要です。
- ・カメラ一体型ビデオの映像・音声出力用ケーブル  
TransCube の映像・音声入力端子とカメラ一体型ビデオの映像・音声出力端子を接続する際、機種によっては専用ケーブルが必要です。



# 本製品の各部名称

## 本体の各部名称

### 本体前面



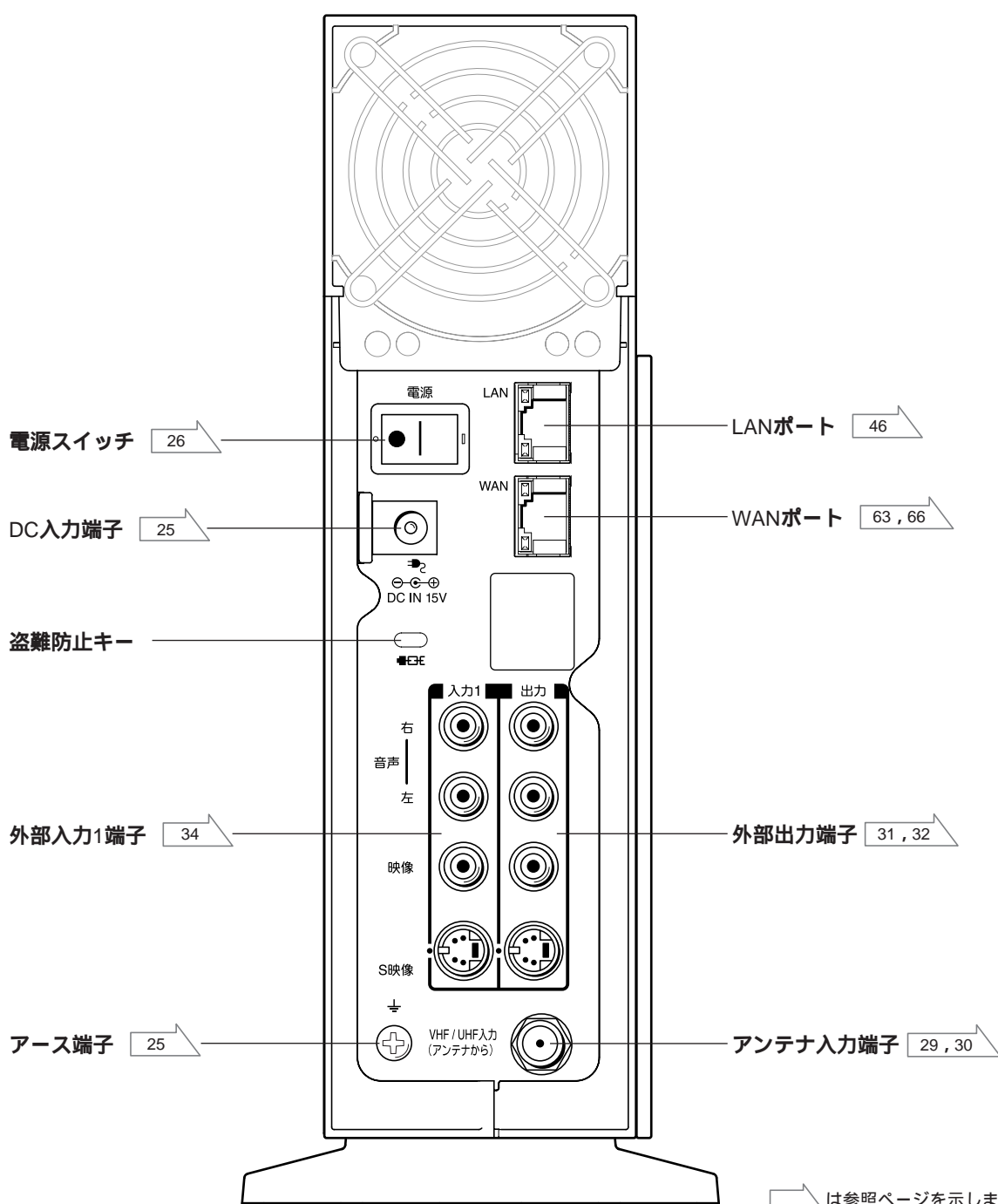
S 映像端子のコネクタの向きにご注意ください。S 映像端子を挿入するときは、端子下の「・」印に合わせて S 映像接続コードを挿入してください。

本体前面に貼り付けてあるアクリルの保護フィルムは、ご使用前におはがしください。

無線 LAN 外部アンテナについて：無線 LAN 外部アンテナについての詳細は、「東芝デジタルメディアエンジニアリング株式会社 営業技術担当」までお問い合わせください。E-mail : [sale@toshiba-dme.co.jp](mailto:sale@toshiba-dme.co.jp)

Tel : 0428-33-6791 受付時間：9：00～12：00、13：00～17：00（土日祝日を除く）

## 本体背面



S映像端子のコネクタの向きにご注意ください。S映像端子を挿入するときは、端子横の「・」印に合わせてS映像接続コードを挿入してください。

# リモコンの各部名称

## 音声 / 音多 ボタン

本体リファレンスマニュアル・15  
音声チャンネルを切り替えます

## 表示 ボタン 119

テレビ画面への情報表示の有無などを切り替えます

## 画質 ボタン 122

視聴画質、録画画質を切り替えます

## 録画延長 ボタン

本体リファレンスマニュアル・41  
録画中の録画時間を延長([+])ボタン)または短縮([-])ボタン)します

## 早送り ボタン

本体リファレンスマニュアル・26  
再生を早送りします

## 巻戻し ボタン

本体リファレンスマニュアル・26  
再生を巻き戻します

## 一時停止 ボタン

本体リファレンスマニュアル・23  
再生を一時停止します

## 停止 ボタン 120

再生や録画を停止します

## ワンタッチリプレイ ボタン

本体リファレンスマニュアル・28  
再生中に約15秒前にスキップします

## ワンタッチスキップ ボタン

本体リファレンスマニュアル・28  
再生中に約15秒先にスキップします

## 削除 ボタン 132

録画済みタイトルを削除します

## 入力切替 ボタン 本体リファレンスマニュアル・11

テレビチューナーと外部入力を切り替えます

## ビデオモード ボタン 27

本体のビデオモードとルータモードを切り替えます

## タイムスリップ ボタン 126, 127

追っかけ再生やお好み再生を開始します

## チャンネル ボタン 118

テレビチューナーの選局を行います

## 録画 ボタン 120

ワンタッチ録画を開始します

## スキップ ボタン

本体リファレンスマニュアル・34  
レジューム再生の際、前後のタイトルにスキップします

## 再生 ボタン 123

録画済みタイトルの再生やレジューム再生を開始します

## スロー ボタン

本体リファレンスマニュアル・25  
スロー再生を行います

## ライブラリ ボタン 123, 129, 131

ライブラリの一覧をテレビ画面に表示します

## 保護 ボタン

本体リファレンスマニュアル・49  
録画済みタイトルを削除できないように保護します

## 決定 ボタン 124, 132

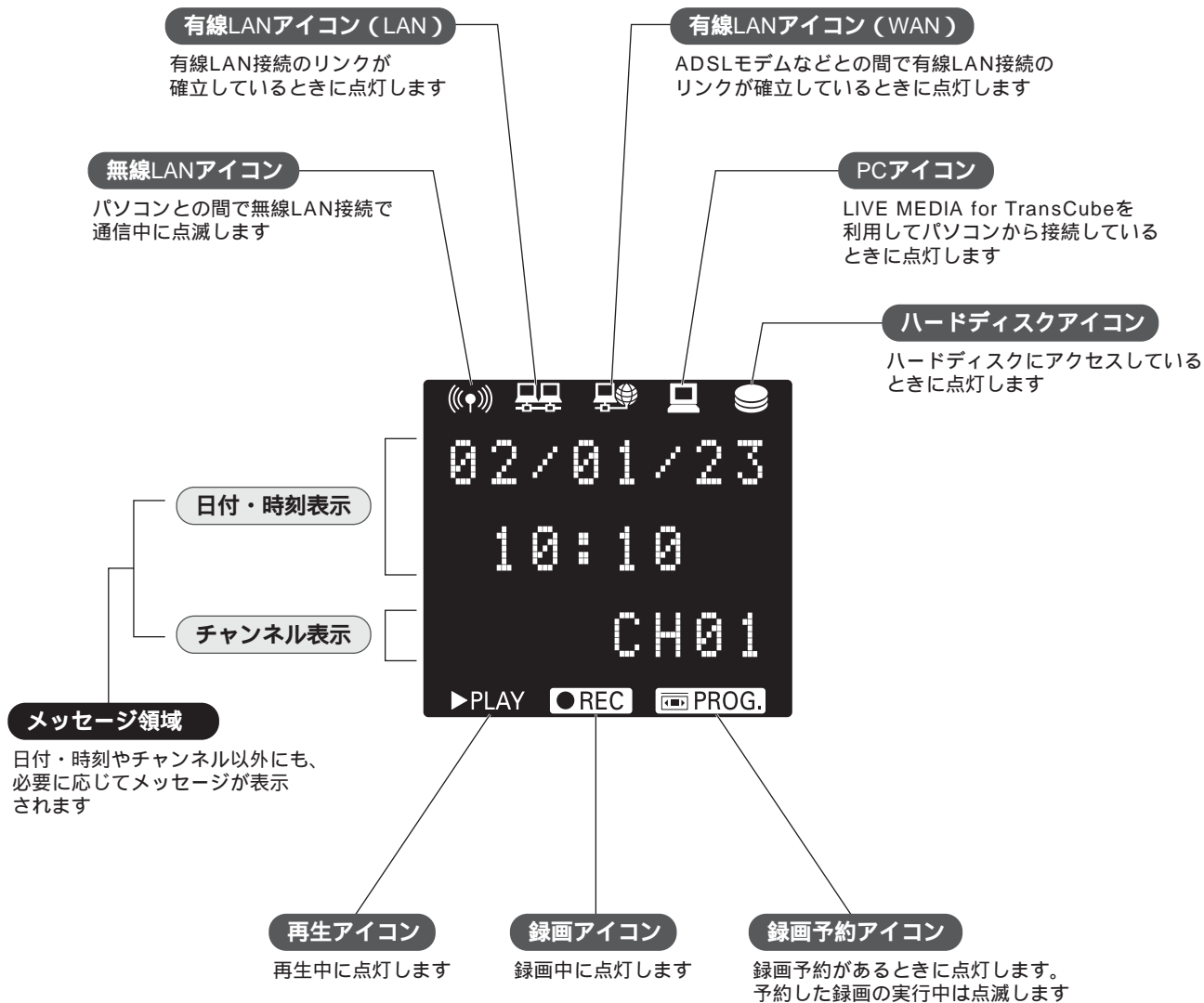
## 方向 キー 123, 130, 131

録画済みタイトルをライブラリから選択するときなどに使います

は参照ページを示します。



## 本体表示窓（モードパネル）の表示内容



# 電源の接続とリモコンの準備

## リモコンの準備

### ⚠ 注意

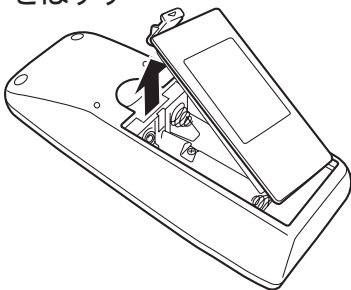
リモコンに使用している乾電池は  
指定以外の電池は使用しないこと  
極性表示 [(+) と (-)] を間違えて挿入しないこと  
充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れないこと  
乾電池に表示されている [使用推奨期限] を過ぎたり、使い切った電池はリモコンに入れておかないこと  
種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないこと  
これらを守らないと、液もれ・破裂などにより、やけど・けがの原因となることがあります。  
もし、液が皮膚や衣類についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い医師の治療をうけてください。器具に付着した場合は、液に直接触れないで拭き取ってください。



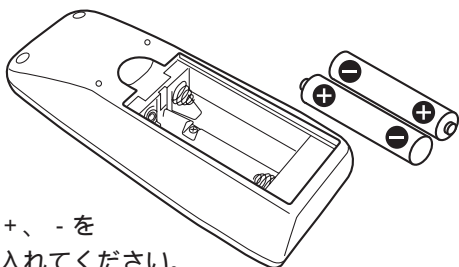
禁止

### 乾電池の入れ方

#### 1 フタをはずす



#### 2 乾電池を入れる

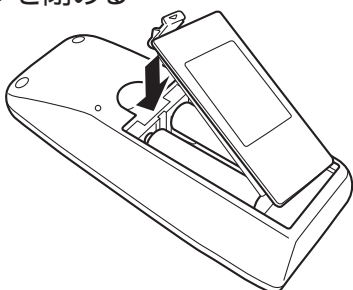


乾電池の +、- を

確かめて入れてください。

単 3 型乾電池を 2 本使用してください。

#### 3 フタを閉める

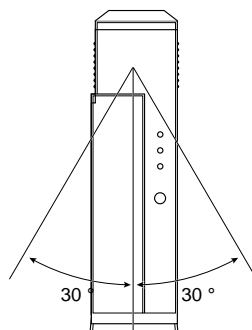


### 乾電池について

リモコンが動作しなかったり、到達距離が短くなったときは、2 本同時に新しい乾電池と交換してください。

### リモコンで操作するには

本体に向けてリモコンのボタンを押す



約5m以内

距離：本体表示窓正面より約 5 m 以内です。

角度：本体表示窓より上下左右とも約 30 度以内です。

・本体表示窓に、太陽光や蛍光灯など強い光があたると、リモコンが動作しないことがあります。

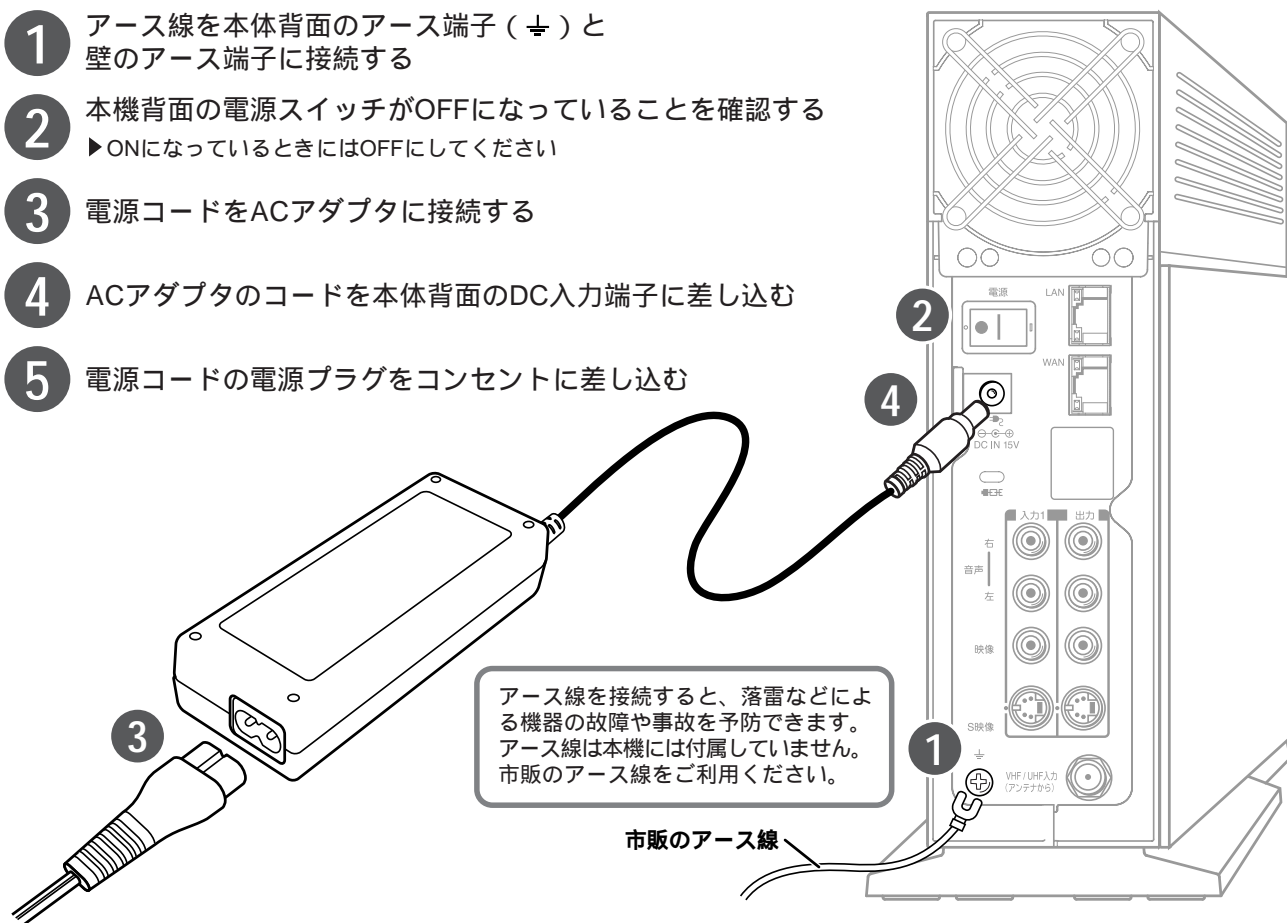
### リモコンについて

- ・本体表示窓が見える正面の位置から操作してください。
- ・落としたり、衝撃を与えないでください。
- ・高温になる場所や湿度の高い場所には置かないでください。
- ・水をかけたり、湿気の多いものの上に置かないでください。
- ・分解しないでください。
- ・リモコンは本機専用です。

# 電源の接続

付属の AC アダプタを本機に接続します。

- 1 アース線を本体背面のアース端子 (⚡) と壁のアース端子に接続する
- 2 本機背面の電源スイッチがOFFになっていることを確認する  
▶ONになっているときにはOFFにしてください
- 3 電源コードをACアダプタに接続する
- 4 ACアダプタのコードを本体背面のDC入力端子に差し込む
- 5 電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む



## ⚠ 警告

### ・ AC 電源について

電源プラグは家庭用交流 100V のコンセントに接続すること。交流 100V 以外を使用すると、火災・感電の原因となります。

電源プラグは、コンセントに完全に差し込んだ状態で使ってください。

### ・ AC アダプタの種類

専用の AC アダプタ以外の AC アダプタは、絶対に利用しないでください。TransCube 本体や電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。

なお、専用以外の AC アダプタの使用によって生じた障害は保証できませんので、あらかじめご了承ください。

AC アダプタの電源コードに、傷や断線がある場合、あるいはプラグに接触不良などがある場合は、すぐにお買いあげの販売店にご連絡ください。

### ・ 異常が起きたら

万一、AC アダプタやコードが熱くなっていたり、焦げ臭かったり、煙が出たりするなど異常が発生したら、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店か東芝家電修理ご相談センターに相談してください。

## ⚠ 警告

### ・ AC アダプタを取り外すとき

AC アダプタを取り外すときには、まず TransCube 本体背面の電源スイッチを OFF にし、表示窓の表示が消えたことを確認してから、AC アダプタのコードを本体の DC 入力端子から抜いてください。次に、電源プラグをコンセントから抜いてください。電源コードを無理に引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったり、継ぎ足したりしないでください。

また、利用しないときには、必ず電源プラグをコンセントからはずしてください。

## ⚠ 注意

・ 電源プラグを抜いたり、DC 入力端子から接続コードを抜き差しする場合は、本機の電源スイッチが OFF になっており、表示窓の表示が消えていることを確認してから行ってください。

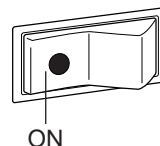
・ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと。感電の原因になることがあります。

# 電源スイッチのON/OFF

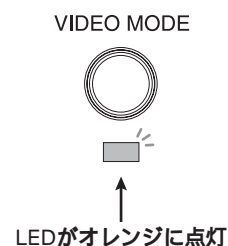
## 1

### 電源スイッチを入れる

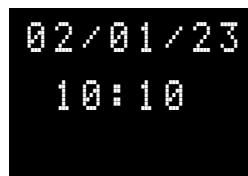
本体背面の電源スイッチをONにします



▶ しばらくすると、本体前面の表示窓に「Welcome to TOSHIBA」と表示され、ビデオモードLEDがオレンジに点灯します。



▶ さらに数秒後、表示窓の内容は日付・時刻表示に変わります。



#### 注意

- ・表示窓に日付が表示されるまでは、本体の起動処理中です。日付・時刻表示が出るまでは、電源スイッチをOFFにしたり、電源プラグを抜いたりしないでください。故障の原因となることがあります。
- ・電源スイッチをONにしてから起動処理の完了まで、約80秒ほどかかります。

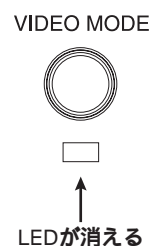
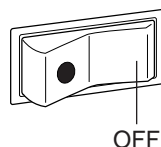
## 2

### 電源スイッチを切る

起動処理が完了していることを確認して、本体背面の電源スイッチをOFFにします

表示窓に日付と時刻が表示された時点で、起動処理は完了しています。

▶ しばらくすると、本体前面の表示窓の表示が消え、ビデオモードLEDが消灯します。



#### 注意

- ・表示窓の日付・時刻表示が消え、ビデオモードLEDが消灯するまでは、本体の終了処理中です。表示が消えるまでは、電源スイッチをONにしたり、電源プラグを抜いたりしないでください。故障の原因となることがあります。
- ・電源スイッチが入った状態では、電源プラグを抜かないでください。電源プラグを抜く前には、必ず本体背面の電源スイッチをOFFにし、表示窓の日付・時刻表示が消え、ビデオモードLEDが消灯したことを確認してください。

# ルータモードとビデオモードの切り替え

本機には、ルータモードとリモコンビデオモード、PC ビデオモードの、3 つの動作モードがあります。起動直後にはルータモードになっています。

## ・ルータモード：

ルータ機能だけが動作しているモード。テレビ視聴や録画は行えませんが、消費電力は少なくなります。

## ・リモコンビデオモード、PC ビデオモード：

テレビ番組を視聴したり録画するためのモード。インターネット接続も行えます。消費電力はルータモードより多くなります。

リモコン / 本体スイッチの操作でルータモードとビデオモードを切り替えると、リモコンビデオモードになります。切り替えには、「ビデオモード」ボタンを使います。

## 1 ルータモードからリモコンビデオモードに切り替える

ルータモードの状態、右のいずれかのボタンを押します。

▶ 表示窓に「Welcome to TOSHIBA」と表示され、数秒後、日付・時刻の下にテレビチャンネルが表示されます。

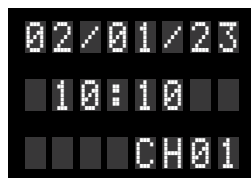
▶ ビデオモードLEDの色がブルーに変わります。



本体前面の「ビデオモード」ボタン



リモコンの「ビデオモード」ボタン



VIDEO MODE



LEDの色がブルーに変わる

## 2 リモコンビデオモードからルータモードに切り替える

リモコンビデオモードの状態、右のいずれかのボタンを押します。

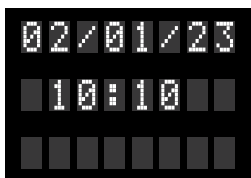
▶ 表示窓に「Router Mode」と表示され、数秒後、日付・時刻表示に変わります(テレビチャンネルは表示されません)。



本体前面の「ビデオモード」ボタン



リモコンの「ビデオモード」ボタン



チャンネル表示が消える

VIDEO MODE



LEDの色がオレンジに変わる

### 注意

- ・ルータモードからビデオモードへの切り替えが完了するまで、約 10 秒ほどかかります。
- ・ビデオモードからルータモードへの切り替えが完了するまで、約 10 秒ほどかかります。

## ビデオモードに関する補足

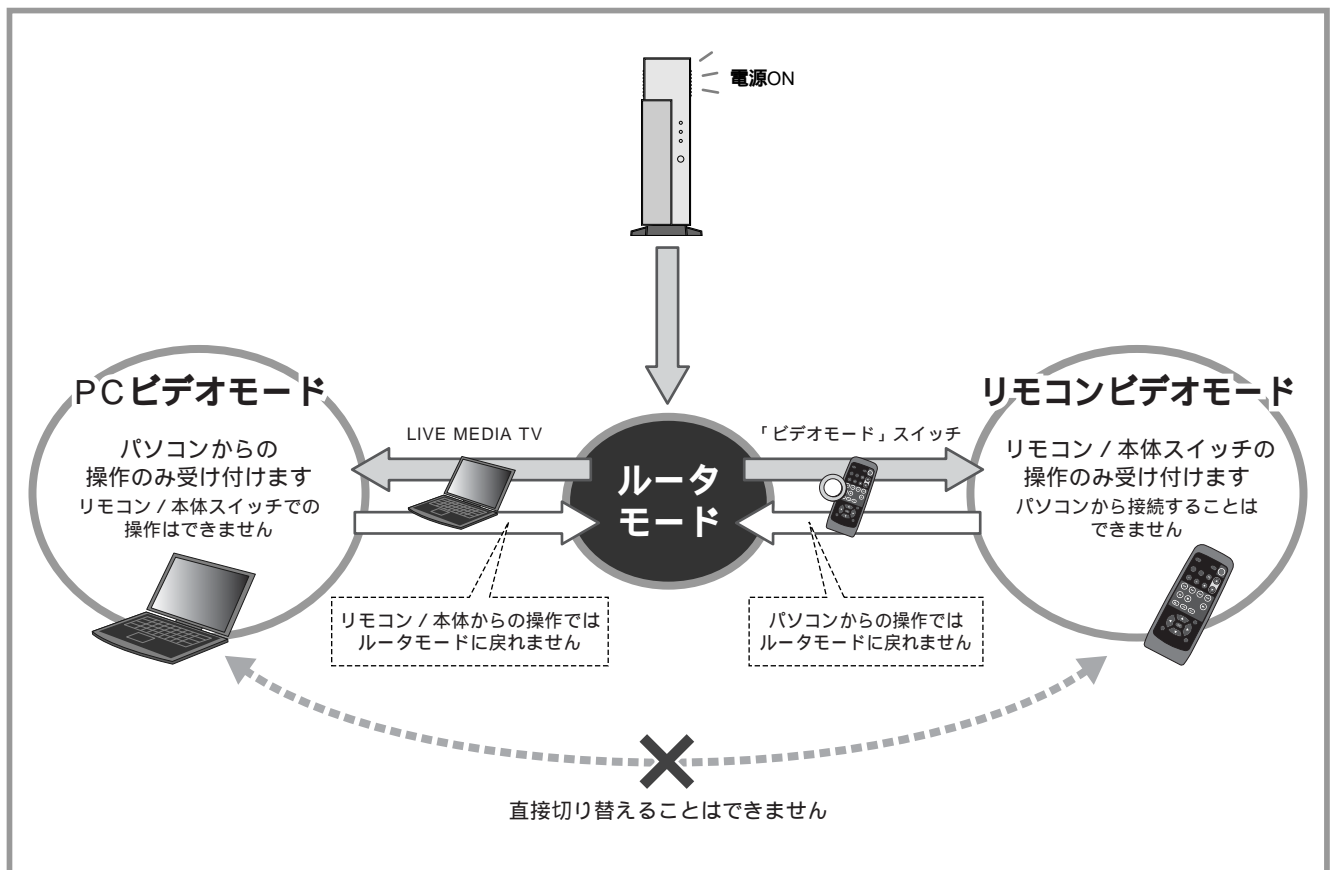
パソコンの専用アプリケーションソフト、LIVE MEDIA for TransCube から接続することで、PC ビデオモードに切り替えることができます。リモコンビデオモードとPC ビデオモードでは動作が異なりますので、ご注意ください。

PC ビデオモードでは、LIVE MEDIA for TransCube を終了するまで、リモコン / 本体スイッチの操作は受け付けません。LIVE MEDIA for TransCube を終了すると、ルータモードに戻ります。

リモコンビデオモードでは、リモコン / 本体スイッチでルータモードに切り替えるまで、LIVE MEDIA for TransCube から接続することはできません。

**参照** パソコンとの接続 36 ページ

**参照** LIVE MEDIA for TransCube の起動 59 ページ



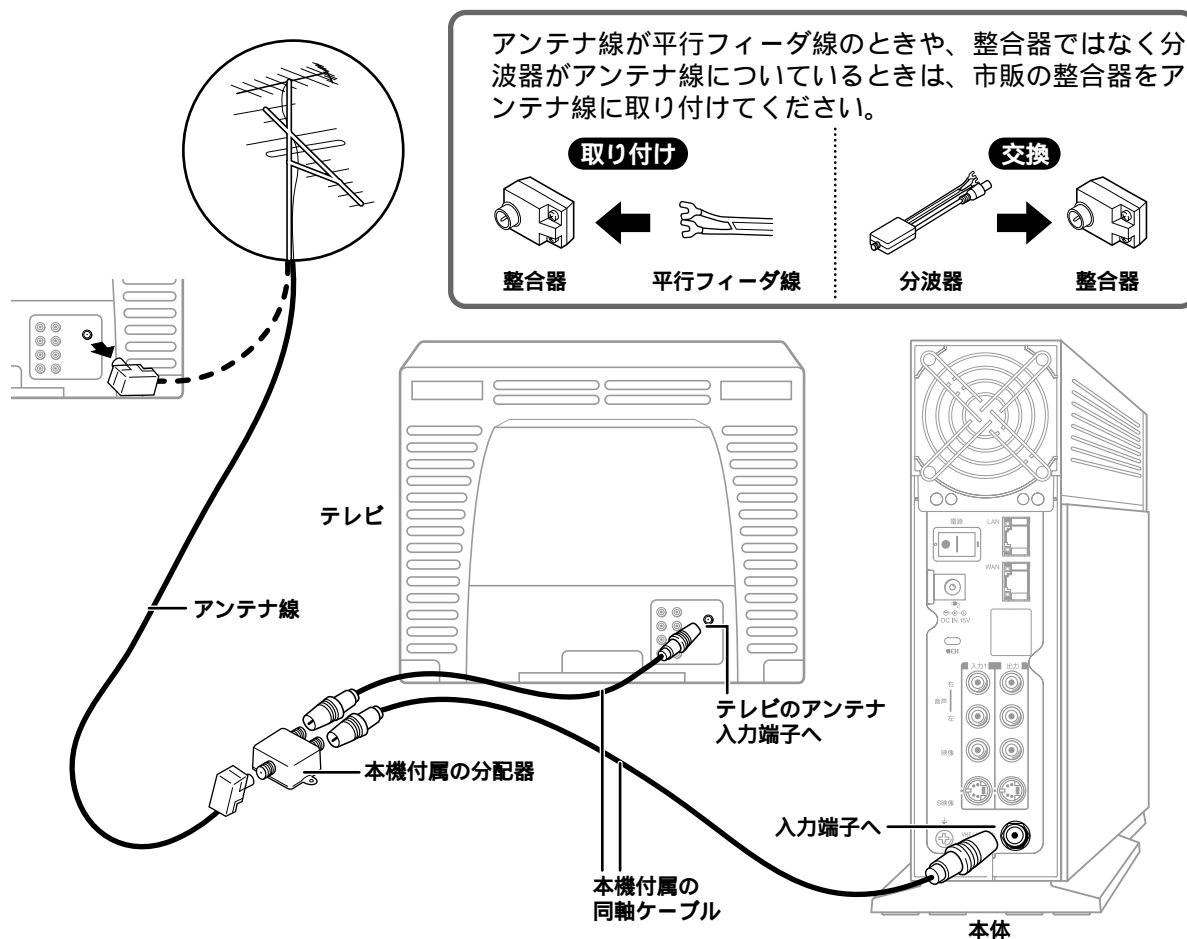
### 注意

- ・録画予約は最優先で実行されます。したがって、リモコンやパソコンで本機を操作している最中でも、録画予約した時間になれば録画が開始されます。

## テレビアンテナの接続

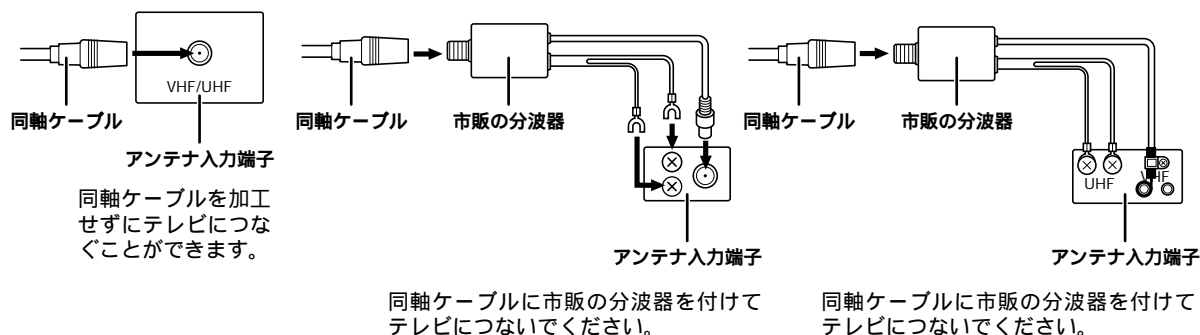
テレビ番組を見たり、録画するために、アンテナとテレビを本機に接続します。

- 1 テレビに接続されているアンテナ線はずし、はずしたアンテナ線の本機付属の分配器へつなぐ
- 2 本機付属の分配器に同軸ケーブル（2本）をつなぎ、1本をテレビのアンテナ入力端子へ、1本を本機背面のアンテナ入力端子へつなぐ



テレビによってアンテナ入力端子が違います。

同軸ケーブルをテレビのアンテナ入力端子へ取り付けるときは、テレビのアンテナ入力端子の形を確認してから、下記のように接続してください。

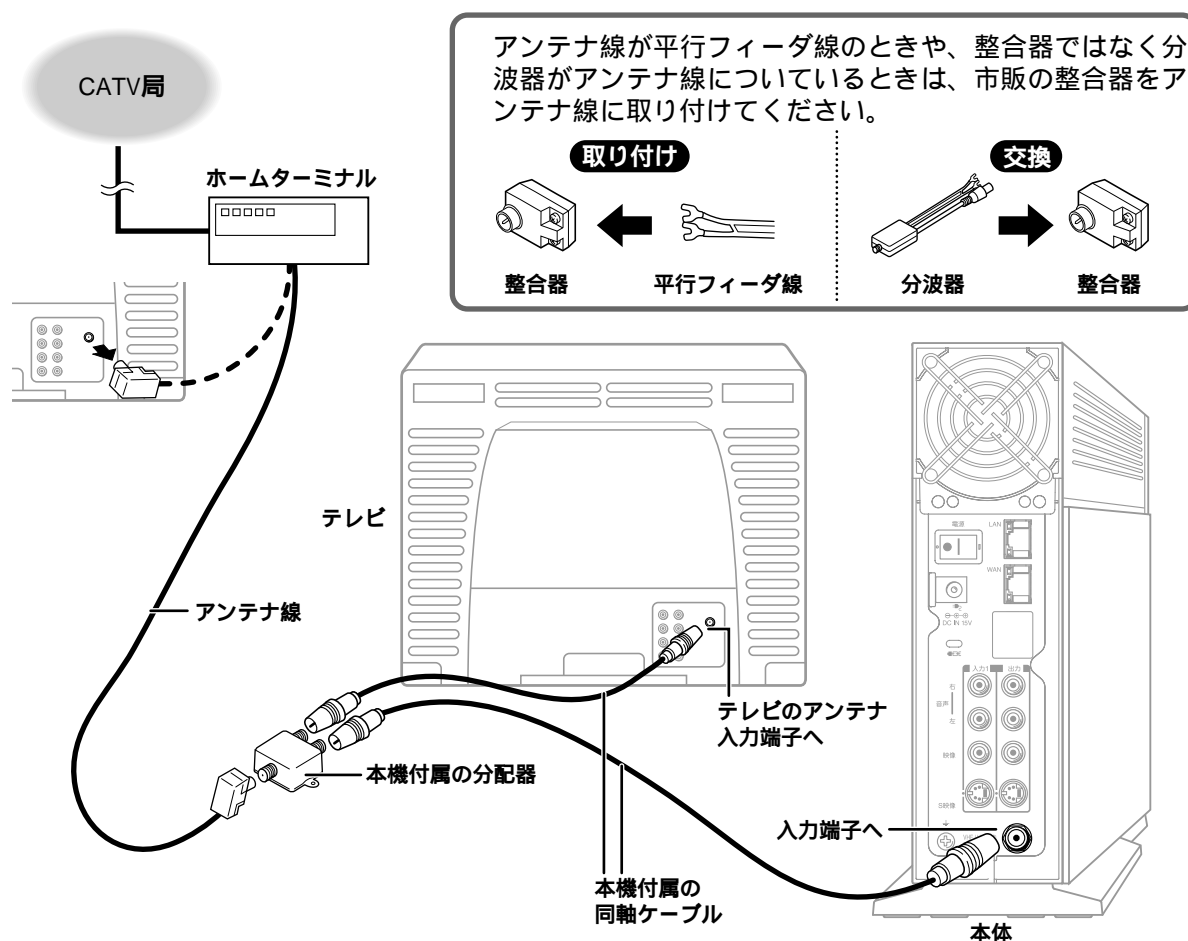




# ケーブルテレビのアンテナの接続

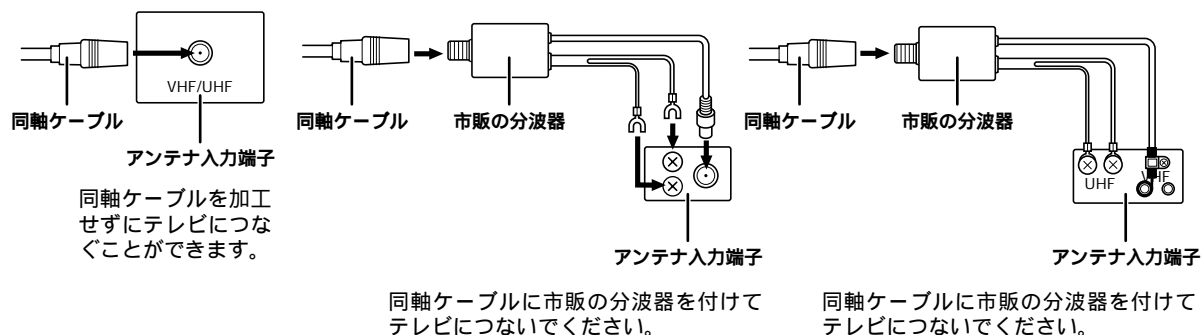
ケーブルテレビをご利用の場合、下の図のようにアンテナ線を接続します。

- 1 テレビに接続されているアンテナ線はずし、はずしたアンテナ線を本機付属の分配器へつなぐ
- 2 本機付属の分配器に同軸ケーブル(2本)をつなぎ、1本をテレビのアンテナ入力端子へ、1本を本機背面のアンテナ入力端子へつなぐ



テレビによってアンテナ入力端子が違います。

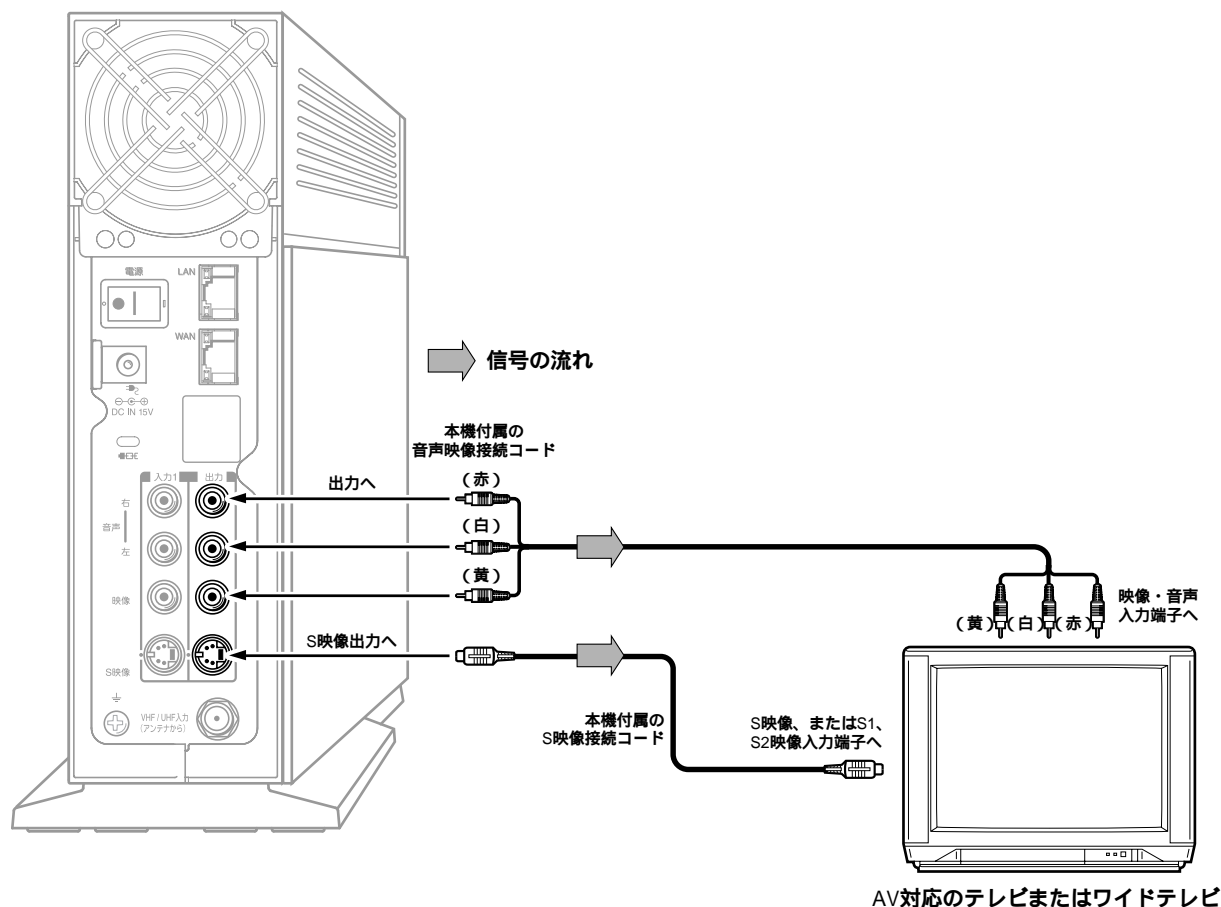
同軸ケーブルをテレビのアンテナ入力端子へ取り付けるときは、テレビのアンテナ入力端子の形を確認してから、下記のように接続してください。





# 映像・音声入力端子付きテレビとの接続

テレビの映像・音声入力端子と本機背面の外部出力端子を、下の図のように接続します。



## 注意

映像・音声入力端子がないテレビは、本機と接続することはできません。

## ワンポイント

より鮮明な映像で見るには、本機のS映像端子とテレビのS映像端子とを接続します。

## ワンポイント

### ワイドテレビと接続するときは

ワイドテレビと接続するときは、S映像接続コードでテレビのS1映像入力端子と接続してください。S1映像入力端子は、アスペクト比（画面の縦・横比）の異なった映像を自動的に識別する機能を持つ端子です。本機はS2映像入力端子にも接続できます。ただし、本機はS1、S2映像信号を出力しませんので、視聴する際にはワイドテレビのアスペクト比を調整してください。

## お願い

- ・接続するテレビの取扱説明書も、よくお読みください。
- ・接続するときは、必ず本機およびテレビの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- ・テレビの音声入力端子がモノラルのときには、市販の接続コードを使用して接続してください。

# ビデオデッキとの接続

本機とビデオデッキを接続するには2つの方法があります。

テレビに映像・音声外部出力端子が付いていない場合は、「TransCube」「ビデオデッキ」「テレビ」とつないでください。

テレビに映像・音声外部出力端子が付いている場合は、「TransCube」「テレビ」「ビデオデッキ」とつないでください。

## お願い

- ・ほかの機器を接続する場合は、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- ・ビデオの取り扱いは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。
- ・本機の電源コードをコンセントにつないだり、コンセントから抜くときは、必ず本機の電源スイッチを切っておいてください。本機の電源がONの状態ではほかの機器を接続すると、本機からの映像が正しく出力されない場合があります。

## テレビに映像・音声外部出力端子が付いていない場合

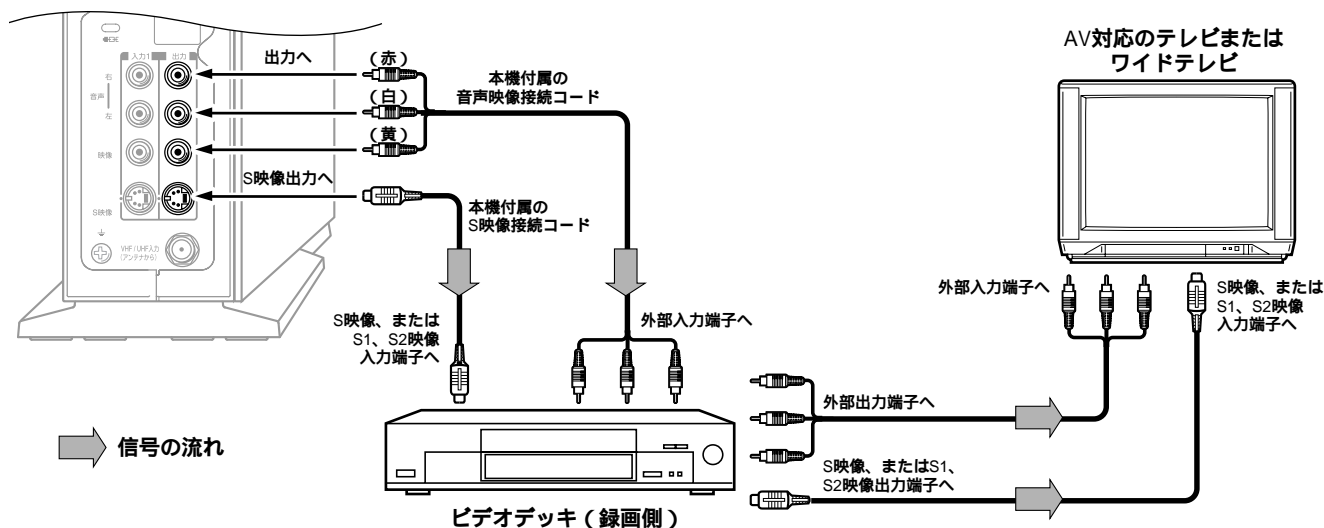
下の図のように接続してください。

この場合、TransCubeの映像・音声をテレビで視聴したり、ビデオデッキで録画するには、次のように操作してください。

TransCube、ビデオデッキ、テレビの電源を入れる。

ビデオデッキのチャンネルを、TransCubeの映像・音声が入力されている端子に合わせる。

テレビのチャンネルを、ビデオデッキの映像・音声が入力されている端子に合わせる。



## ワンポイント

より鮮明な映像で見るには、各機器のS映像端子とS映像端子を接続します。

## テレビに映像・音声外部出力端子が付いている場合

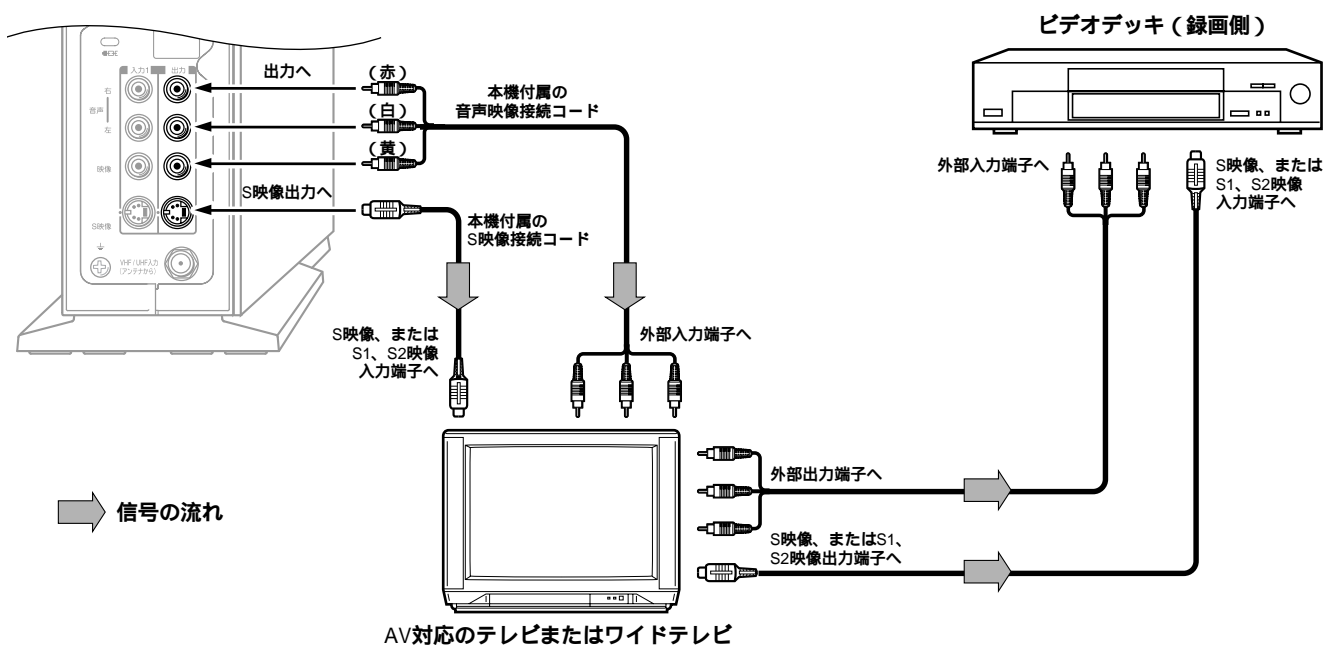
下の図のように接続してください。

この場合、TransCube の映像・音声をテレビで視聴したり、ビデオデッキで録画するには、次のように操作してください。

TransCube とテレビの電源を入れる。

テレビのチャンネルを、TransCube の映像・音声が入力されている端子に合わせる。

ビデオデッキでTransCube の映像を録画するときは、ビデオデッキの電源を入れ、ビデオデッキのチャンネルを、テレビの映像・音声が入力されている端子に合わせる。

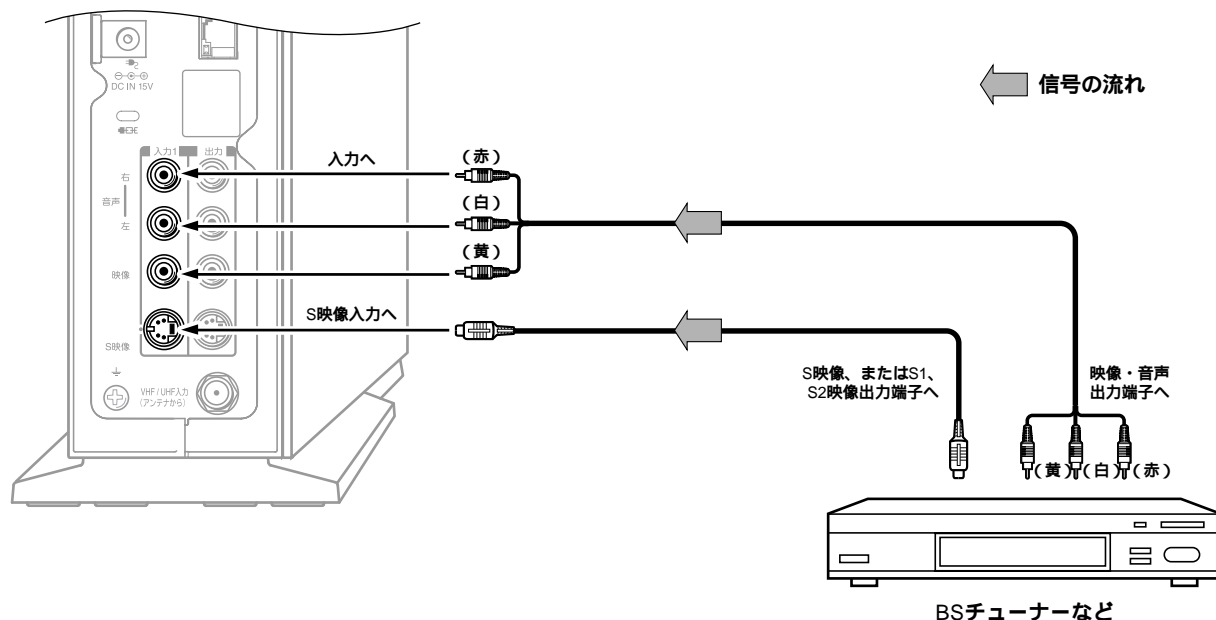


### ワンポイント

より鮮明な映像で見るには、各機器のS映像端子とS映像端子を接続します。

## BS チューナーなどとの接続

BS 放送を録画するときは、本機背面の外部入力 1 端子に、BS チューナーや BS チューナー内蔵ビデオデッキの出力端子を接続します。



### 1 入力する機器を本機に接続する

### 2 リモコン / 本体の「チャンネル」 「チャンネル」または「外部入力」スイッチを操作し、「外部入力1」に切り替える

#### ワンポイント

より鮮明な映像で見るには、本機の S 映像端子と BS チューナーなどの S 映像端子とを接続します。

#### お願い

- ・ほかの機器を接続する場合は、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- ・BS チューナーなどの取り扱いは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

#### 注意

- ・著作権保護機能がかかった映像は入力できません。

#### 注意

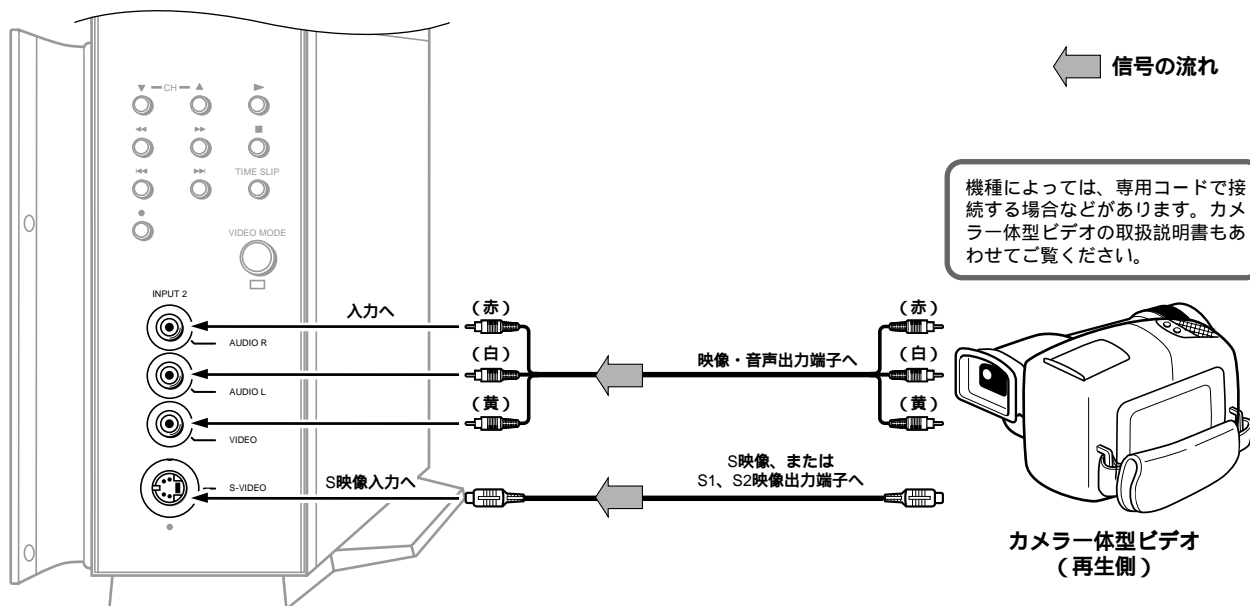
外部入力 1、または外部入力 2 に接続された機器を、本機または LIVE MEDIA for TransCube から制御することはできません。

外部入力 1、または外部入力 2 からの入力映像を録画予約する際は、予約した録画の準備が始まるまでに接続した機器から目的の映像が出力されるよう、その機器を設定してください。目安としては録画開始約 1 分前となります。

たとえば BS チューナーを本機の外部入力端子に接続した場合、BS チューナーの電源を入れたり、チャンネルを切り替えるなどの操作は、BS チューナーの側で行う必要があります。

# カメラ一体型ビデオ(ビデオカメラ)などとの接続

カメラ一体型ビデオで撮影した映像を本機にダビングできます。この場合、本機前面の外部入力2端子に接続すると便利です。



- 1 本機の前面扉を開ける
- 2 入力する機器を本機に接続する
- 3 リモコン/本体の「チャンネル」 「チャンネル」または「外部入力」スイッチを操作し、「外部入力2」に切り換える

## 注意

- ・本機前面の入力端子に接続する場合、端子の最大外径寸法が 11.5mm よりも細いピンケーブルしか使用できません。この寸法を超えるピンケーブルの場合は、最大外径が 11.5mm 以下のものに交換してください。
- ・機種によっては、専用コードで接続する場合などがあります。カメラ一体型ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ・機種によっては、ビデオの早送り、早戻し映像を正しくダビングできない場合があります。

## ワンポイント

- ・本機に録画した映像をカメラ一体型ビデオにダビングする際は、「ビデオデッキとの接続」(32ページ)を参考に、本機背面の出力端子と、カメラ一体型ビデオの入力端子を接続してください。
- ・より鮮明な映像で見るには、本機のSビデオ端子とカメラ一体型ビデオのS映像端子とを接続します。このとき、ピンケーブルの映像端子(黄)は接続する必要はありません。
- ・映像を表示中に、外部入力のS映像端子や映像接続端子(黄)に接続したコードを抜き差しした場合、映像が正しく表示されなくなります。いったんチャンネルをテレビ放送に切り替えたあと、外部入力に切り替えてください。